



法算

點竄初學抄

全

= 2  
3201







まるき千萬條を暗記したる人も差支る事な  
 了ふ苟も瑣屑の理不貫通をいふ事條より  
 真事より速く術を授けし得然し  
 あらむるに記憶するに人やおもひ  
 草術の力より少く點竈に入らば  
 初學より點竈の理より少く草術を  
 りんや算法者流の高拙を評論する  
 是れ存存するもの近世法名家  
 出くわねる如く

算易のそ意味を得るは  
 門人橋本昌方  
 書を  
 算子教所の意を  
 一編をわつり  
 除き  
 乗除加減  
 用法を  
 算見一

算術の要訣

三

三

おのづから點竈の域より一めんを以て要する是も  
 此處に之の捷徑ありと理會しやまじやう先哲  
 のいさぶ敷をさぐるゆゑを尋常の事とすべし  
 ありて異端のをくくるともあやとせざるべし  
 おろそかにしぬるも大略を以てなすべし  
 文政十三年庚寅十月初旭岡池田貞一識



點竈大意

乗除

○ 四五石 三斗五升

ハ 俵枚

かゝれごとく左右のうらふたる

乗除を以てその代傍書よりよきものより右の傍書

除するものたる傍書を以て其珠盤に掛るは右より

割るは左よりを以て象かり故に今爰は出まの

式拾五石と置三斗五升の入り割る三斗五升より下ハ

端米を斗五升と清り也又如此乗除の多きものも総

て掛るは其の先いづれもかけ後より重も除く

○ 八百 十二文 の類ハ八百をより九分六厘をりけ調銭と



占の算少

大意



正割五分と減一八分五厘とを減る也是美善に色を以て  
 正と負をこゝろへる書小ハかき分が地ゆへり  
 総て是と用ゆ  
 を負と引減るは義に限り用  
 ゆらちる

段数

○ 三十八四 四十二両二分 の類は三拾八両は四拾貳兩貳分 段を加へ百貳  
 拾三兩とて三拾平均四拾三兩とて也數のかりたる  
 ものハ別に加へる同數也一兩は加へる  
 名目は倍するもの  
 數はかりて同一名目の  
 一のと一兩を加へる同加  
 減の條と見合ふ  
 幾段とてちり又  
 下長平 上長平 上長平  
 の類も下長下平のかりたるものも上長上平のか

あるものハ二段づつれ其段數を倍するなり  
 一の位ハ十の位ハ横百ハ千ハ横とひらおきよかぶる  
 一ハ二ハ三ハ四ハ五ハ六ハ七ハ八ハ九ハ  
 七六 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六  
 一八一 二八 三六 四六 五六 六八 七八 八八 九八  
 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六  
 九十五 是等の類を推して  
 同加異減

○ 後と正と正 甲 甲 負と負 乙 乙 如此  
 ちりて同名といひと 甲 乙 各加へる一兩を  
 黄冠の算少 大意 三





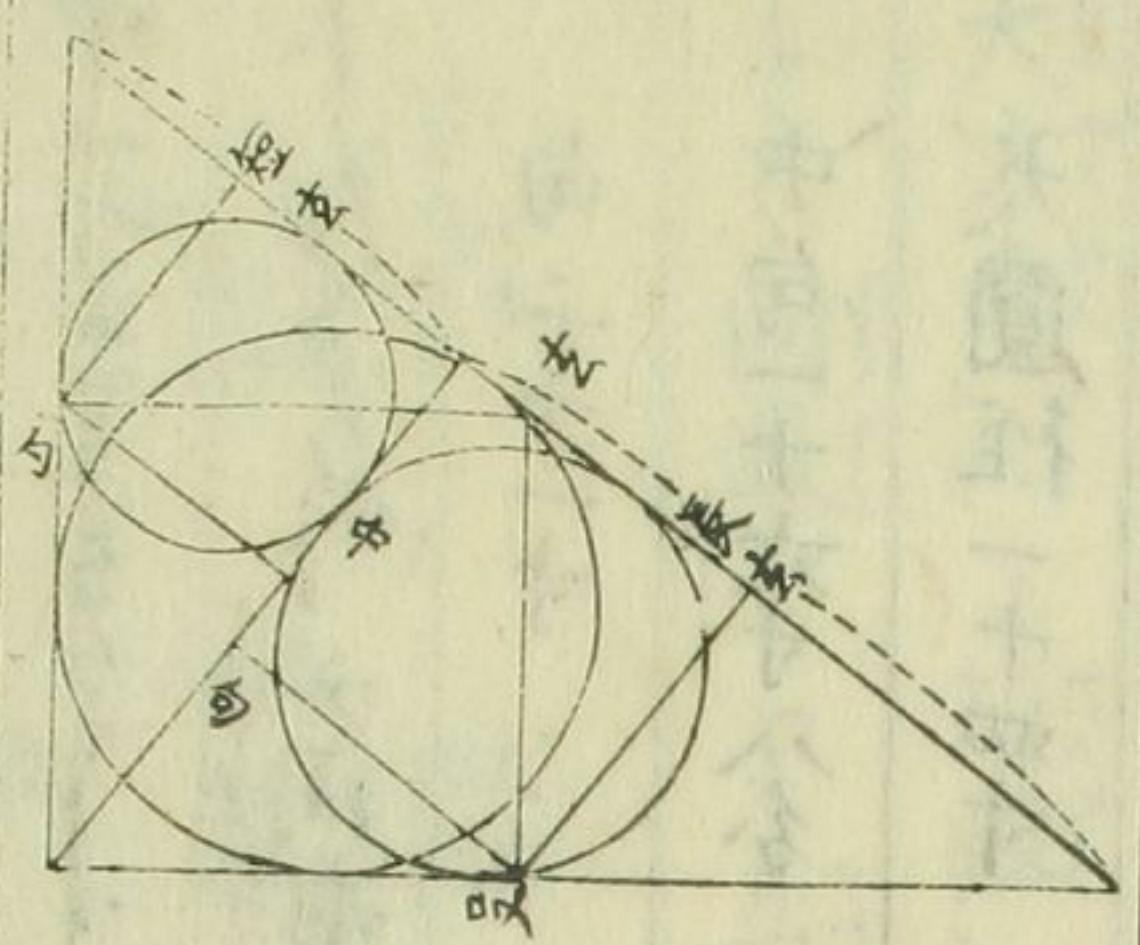
その何れに傍書しければそのを假し名づけたるまじの  
ことあり

○傍書の理とよく自得したる人上ハ壁ハ百五下リハ永

と何れハ 云銀 毎両銀 ハ 永  
と何れハ 永  
と何れハ 又 千五百九十五儀 一斗七升五合 ハ 石数  
と何れハ 儀教 瑞米 ハ 石数  
と必数とゆへに総と各目を

うると傍書まじきことありゆへに数ばかりても術よかり  
たるしかりにゆへにと名目るにその何れよりをみるに  
ゆへに名付ゆへにゆるるなり 和差あるをハ只云数又云数をいふの  
ことしと云うれば此書ハ初學の見やをかんたんに姑く数を  
施すものを文也

比例



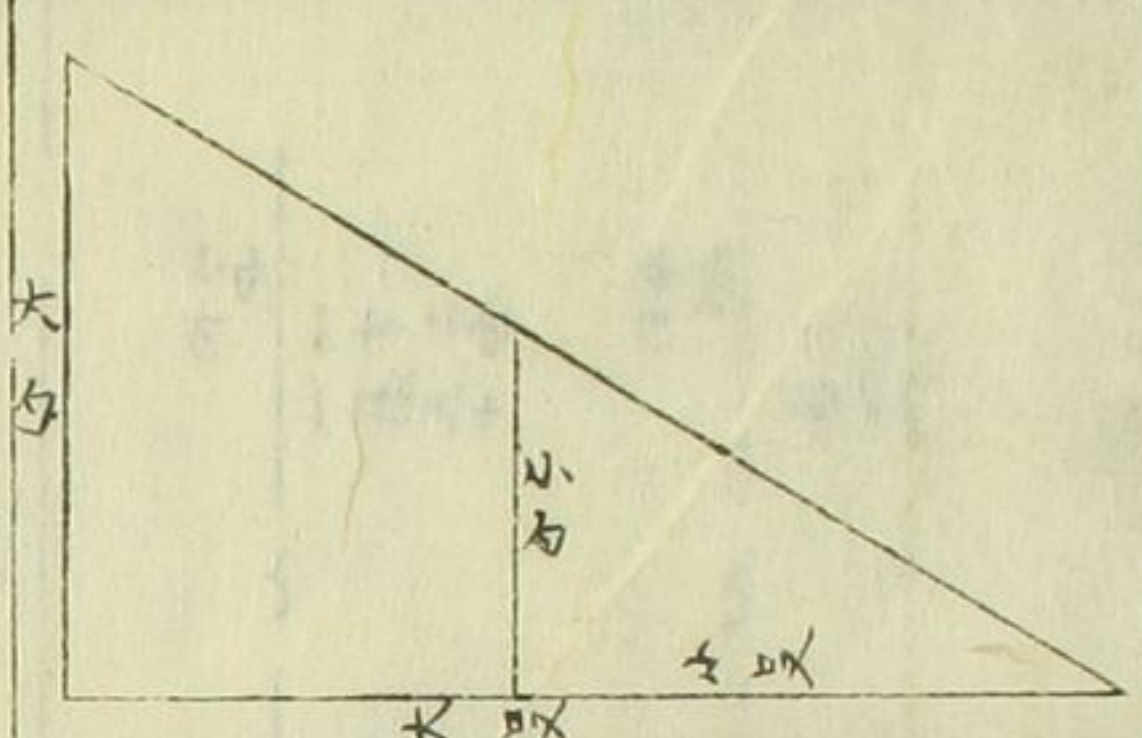
例		比	
短弦	中句	句	句級
中句	長弦	股	股級
句	股	弦	弦級
小圓	中圓	大圓	圓級
小方	中方	大方	方級

○假如バ句股弦と 算法者統と句とツリと云股とハタハリ 大句股形とハ

中句長弦股と中句股形とハ 短弦中句句と小句股形とハ  
中の句股形とハ 中句ハ句とハ 長弦ハ股とハ  
股ハ弦とハ 小の句股形とハ 短弦ハ句とハ 中



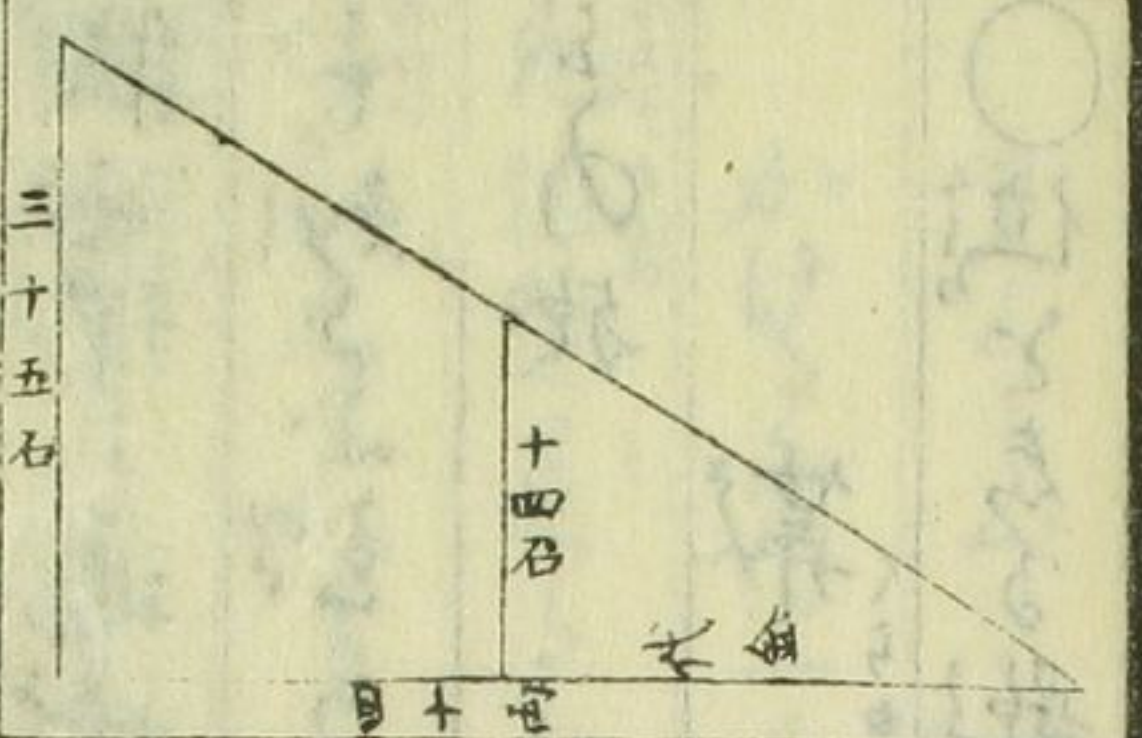
○假如バチ小大句股あり大句八寸四分大股一十一寸二分今是に  
 なるひく小句股を作らんといふ小句三寸五分小股幾何  
 と問ふ也



下の圖はごとく大句は小股又  
 小句は小股と相對し書さる見ふ小股  
 を問ふのゆゑ數をたまたむのかりある  
 通し小句三寸五分大股一十一寸二分  
 數乃たれたるものを  
 斜よりけ合ふ大句八寸四分小股四寸  
 を得るなり

比	大句四分
例	小句三寸五分
比	大股一十一寸二分
例	小股四寸

○假如バチ米三拾五石付金四拾兩替り今米拾四石の代  
 金を問ふ也



此比例より今米拾四石  
 石は四拾兩をうけ三拾五石に  
 除くると云ふ此理より出たるなり  
 拾六兩を得るなり世に異乘同

比	三十五石
例	十四石
比	四十兩
例	代金

○假如ハ七歳と五歳と三歳の兄弟の子供乃松いをも  
 者あり衣服法入用より小金貳拾兩を三人に配分し七歳ハ  
 拾兩五歳ハ七兩三歳ハ三兩乃積り右の金高き意トて  
 産上神へ納銀も人々但三歳の小兒ハ銀拾五兩の割合  
 各何程と問ふ也

此比例より先拾五文七兩と

うけ三兩は銀ハ  $\frac{17}{5}$  文ハ  $\frac{7}{5}$  文

例比

三五	三兩	七兩	十兩
五文	七文	七文	七文

三拾五文を清る其五歳の銀一拾兩をうけ七兩少くを

計五兩ハ  $\frac{7}{5}$  文ハ  $\frac{7}{5}$  文 五拾文を清る也此外比例乃用法千變萬化

此理を通曉し自在に用ふ事と清る算法の温奥を

も知る事と實に數學者の須臾も離るべからざる所の

もの歟

算位

○位とある歌

見くくく位のかゝるの乃柄りての位ハ一とありたり

かけの乃は一乃位の次は柄法のうらとありたり

凡位を見くふは一の位を定むる心得あり其題は階

味しとあり

點竈をばいづくを能理ありて容易に書くは

よらとありたり開らざるごとくおよび平方以上の

ゆづりそまがれ此書は解をべきの大約を擧ぐ階梯と

かりとあり

算法點竄初學抄

池田貞一蘭

東都

常陸

橋本八郎昌方著

木村定次郎尚壽

秋山源左衛門彝徳

校

錢價

○錢八百拾貳文あり調錢しりと何程と同

答 七百八拾文

九百六

十二文

八 調錢

是八百文とおき九百六厘  
とけ十二文を加へたるなり

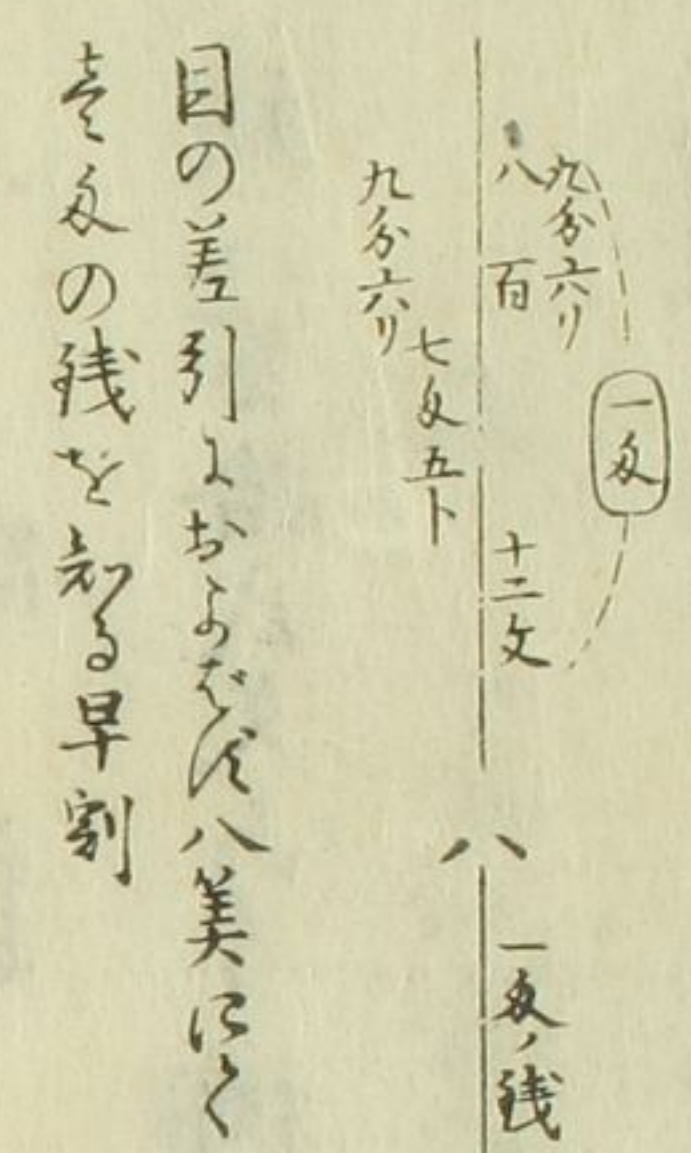
○金貳朱の相場八百拾貳文兩替六拾文ありと銀壹朱の沙ハ

点竄初學抄

後

何程と問

答 百。八文



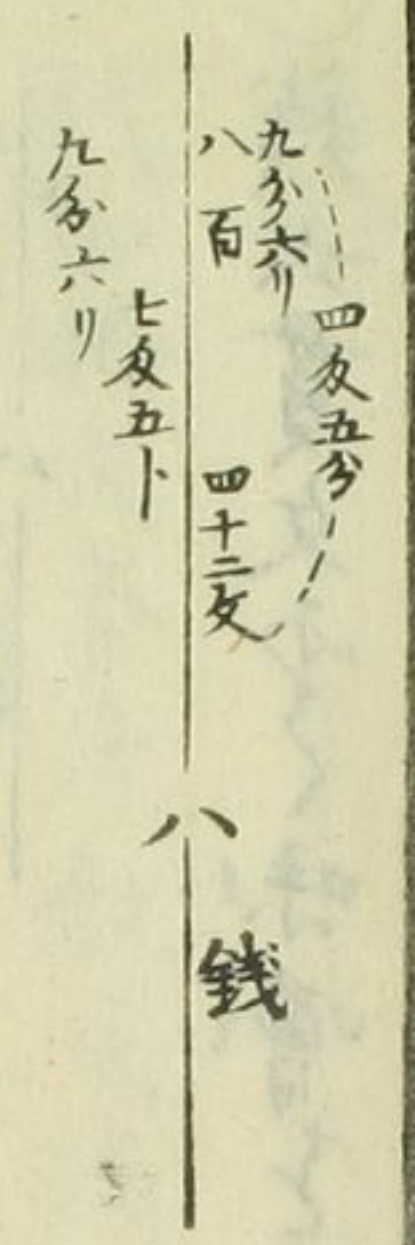
是ハ比例よりて八百文と  
 五匁五下とをけ十二文を加  
 七匁五下は割る百文より上  
 と九分六厘は割る百文より上  
 以下是よりなり

是ハ八百と端錢とを内二文減  
 四とけ三は割る百文より上  
 四とけ三は割る百文より上  
 倍金貳朱分の銀三拾匁は割る

例 比	
七匁五下	八百匁
一匁	錢

○金貳朱の相場八百四拾貳文兩替六拾匁と銀四匁五下  
 の錢ハ何程と問

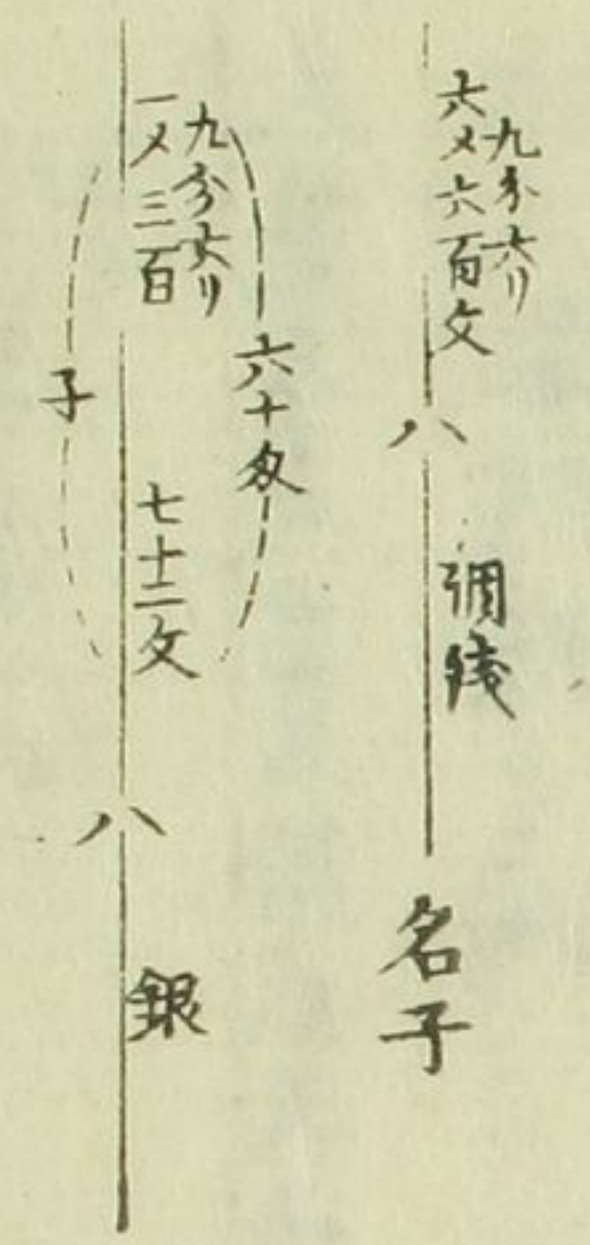
答 五百。六文



例 比	
七匁五下	八百匁
四匁五下	錢

○錢壹貫三百七拾貳文兩替六拾匁相場ハ六匁六百  
 文と銀何程と問

答 拾貳匁五下



例 比	
六匁六厘	六百匁
一匁三厘	錢

○銀八匁七下五厘に錢九百八拾匁と文たつり兩替六拾匁と  
 金と兩の錢相場と問

野宮初學抄

答 六貫七百四拾八文

九分六厘 六十文  
九分 八十文  
八分七厘 八十文

例 比	
八分七厘	各百文
六分	錢相

○人足き人百三拾貳文少く雇賃錢拾貫文拂ひるは  
此人數何程と問

答 七拾五人

九分六厘 三十三文 八 佃珠 名子  
一人 九分六厘 十文 八 人数

例 比	
百五十文	一人
十文	人数

○錢六貫文少く味噌を焚人より大豆を升麴八合陸拾

の割より大豆を升代六拾四文麴を升代五拾文陸拾を升  
代四拾文各升數及代錢と問

大豆四斗八升 代三貫貳百文  
麴三斗八升四合 代貳貫文  
陸拾斗九升貳合 代八百文

一升 麴八合 陸拾四文 法 六分六厘 率 四十八とろろ

豆一升 豆廿四文 陸拾四文 法 六分六厘 率 四十八とろろ

率 麴八合 陸拾四文 法 六分六厘 率 四十八とろろ

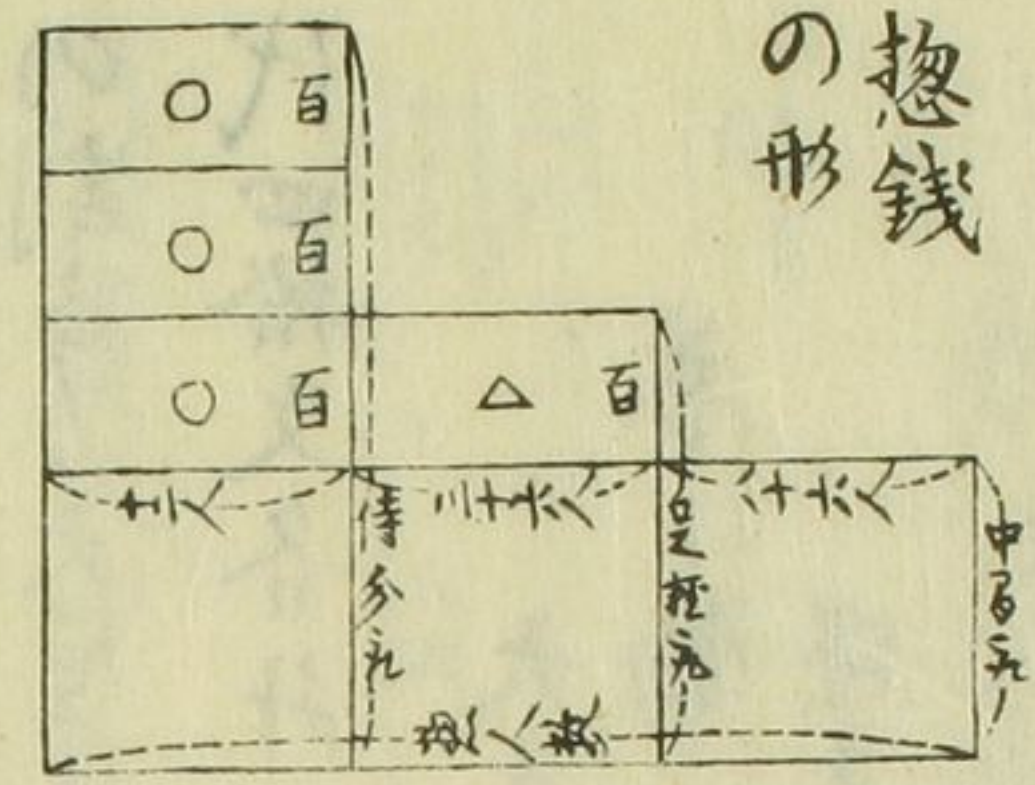
陸拾四文 陸拾四文 法 六分六厘 率 四十八とろろ

率 陸拾四文 陸拾四文 法 六分六厘 率 四十八とろろ

率 陸拾四文 陸拾四文 法 六分六厘 率 四十八とろろ

○侍分拾貳人足程三拾六人中間八拾六人<sup>儀</sup>の酒代  
 金五兩をきり是と錢<sup>分</sup>を配分も西替六貫八百文  
 但侍分より足程ハ貳百文少一足程より中間ハ百文少  
 一各取錢何程と問

答 侍分五百文 足程三百文 中間貳百文



侍分 拾貳人 足程 三拾六人 中間 八拾六人  
 侍分 拾貳人 足程 三拾六人 中間 八拾六人  
 侍分 拾貳人 足程 三拾六人 中間 八拾六人

惣錢の形  
 惣錢 拾貳人 足程 三拾六人 中間 八拾六人  
 侍分 拾貳人 足程 三拾六人 中間 八拾六人

中間取 百文 八 足程取 二百文 八 侍分取

○錢あり其數を知り只云き貫八百文<sup>分</sup>分きハ云き貫文餘る  
 又云き貫九百文<sup>分</sup>分き全き貫五百文不足なり人數と問

答 貳拾五人

又云錢 只云錢 八 子 余 不足 八 人數



金銀

永錢の事

- 一 永壹貫文ハ 金壹兩
- 一 永七百五拾文ハ 金三分
- 一 永五百文ハ 金貳分
- 一 永貳百五拾文ハ 金壹分
- 一 永百貳拾五文ハ 金貳朱
- 一 永六拾貳文五分ハ 金壹朱

總々金高の乗除ハ右の永錢少く置ちり

○永九拾八貫六百五拾三文あり兩替六拾文あり之は金及

端銀何程と問

答 金九拾八兩銀三拾九文壹十八厘

九十八六十文 六百五拾文ハ 金十八兩

百の位まで六十文をり

○銀百四拾貳文三下貳厘あり永錢あり何程と問

答 永貳貫三百七拾貳文

但兩替前同断

百四十五三下リ 六十文ハ 永

○銀七拾貳貫三百七拾五文あり金あり何程と問



答 金拾兩。三分

四十三文  
十五枚  
六十文  
ハ 金

○古金五百兩あり通用文字金は六割半増かり  
此金何程と問

答 文金八百貳拾五兩

一ヶ六五  
百金五百兩  
ハ 文金

○甲州金相場文字金拾兩付八兩貳分銀を多り甲金  
拾五兩銀三拾六文六卜五重より兩替定相場四拾八文

甲州文字金何程と問

答 文金拾八兩貳分

四十八文  
甲金兩分  
一文  
ハ 甲銀  
各子

四十八文  
甲金十五兩  
三十二文六分  
ハ 文金

例 比

甲兩三文 文十兩  
甲十五兩銀 文金

○上納金を包入用金百兩付銀五文より永百拾八貫五百  
文の包入用永何程と問

答 永九拾八文七分五厘

五文  
永百十文五百文  
六十文  
永百人  
ハ 包入用永

例 比

永百文 五文  
永百十文五百 包入用銀

米穀

○現米げんまい貳拾五石あり三斗五升入りと此こゝ俵いり數かず何程いかに

答 七拾壹俵しちじゅういちいりと斗五升

廿五石 八 俵數

三斗五升を割りてそより減りて俵米

○四斗入の米千五百九拾五俵しよほんごうじゅうごいりと斗七升五合あり此石數何程と問

答 六百三拾八石と斗七升五合

四斗 千五百九拾五俵 斗七升五合 石數

○米こめ直段ちくたん三斗五升入百俵ひゃくいり付四拾兩替りかへりと金かねを兩りゆう米何程と問

答 八斗七升五合

(一兩) 百俵 四十兩 八 一兩米

比	四十兩	百俵
例	一兩	米

○同百俵ひゃくいり付四拾三兩三分替りかへりと石いしの代金しろがね何程と問

答 金かねを兩りゆうを分ぶん

百俵 八石 代金

百俵 八石 代金

例	比
百俵	四十二兩五分
一石	代金

同三拾八兩替り米金半分渡り右半分の米を四拾九兩式分には是と拂小平均相場と問

答 四拾三兩三分

三才兩 四十九兩五分 平均

同三拾八兩替り米三分一全三分二米渡り右の三分二の米と四拾貳兩式分拂小平均相場と問

答 四拾三兩

三才兩 四十二兩五分 平均相場

玄米拾貳俵斗七升五合あり百俵付三拾貳兩替り代金何程と問

答 金四兩

百俵 三十二兩 斗七升五合 代金 三十五兩

例	比
百俵	三十二兩
斗七升五合	代金

玄米四斗五升あり金を兩と八斗替り代金を問

答 金貳分五厘

一兩  
四兩  
八代金

例	比
一兩	八兩
四兩	一兩
八代金	代金

○玄米八拾八石河りき石付金を兩き分りし此代金  
何程と問

答 金百拾兩

一石  
十石  
八代金

例	比
一石	一兩一分
十石	代金

○金百八拾五兩と出しし四斗俵の米を買ふ兩より石貳斗替  
しし俵數何程と問

答 五百五拾五俵

一石  
百十兩  
一兩  
四斗  
俵數

例	比
一兩	一石二斗
百十兩	米

○銀き貫六百七拾五文はく壹石付金を兩銀貳文五下  
の米と買石數何程と問 但兩替六拾文

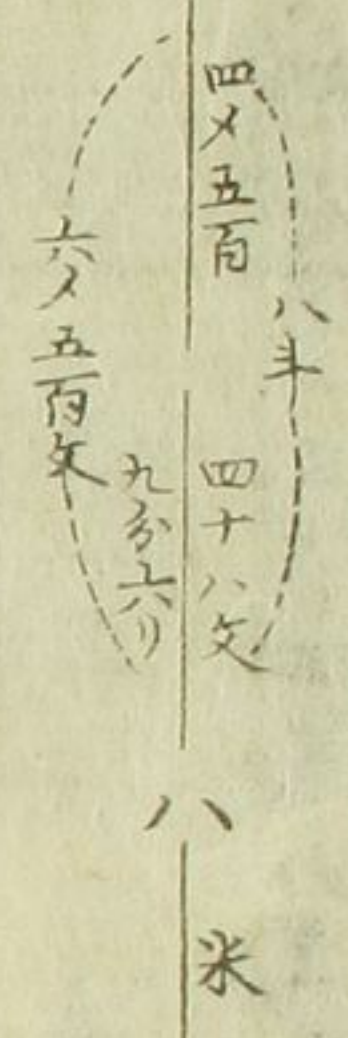
答 貳拾六石八斗

六文  
一兩  
二文五下  
八銀  
名子  
一石  
六百七拾五文  
石數

例	比
一兩	二文五下
一石	六百七拾五文
石數	

○錢四貫五百四拾八文あり兩より八斗替の米を買兩替六貫  
五百文ありし米何程と問

答 五斗六升



例	比
一兩	八斗
四斗五升	米

○小賣一百文ニ付九合の白米を貳斗六升を合買代錢何程と問

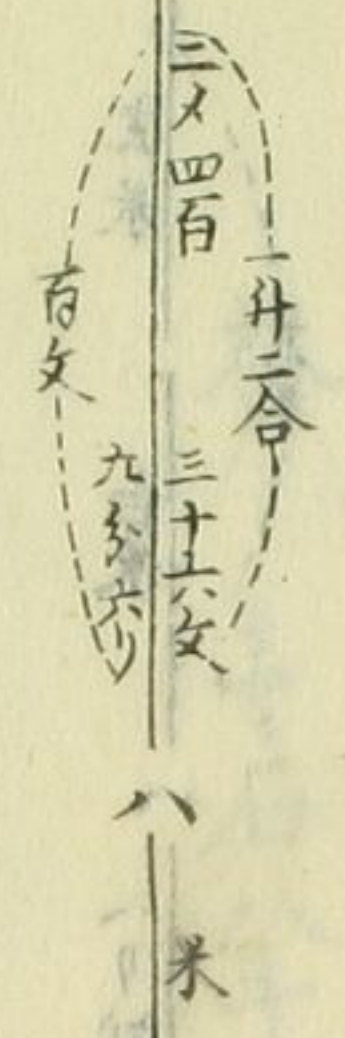
答 貳貫九百文



例	比
九合	百文
百文	代錢

○同百文ニ付三升貳合の白米を貳貫四百三拾六文ニ買ふ米何程と問

答 貳斗九升貳合五勺



例	比
百文	一升二合
貳貫貳文	米

○同百文ニ付八合賣の白米を銀四拾五文買兩替六貫五百文此米何程と問 但兩替六拾文

答 三斗九升



例	比
百文	八合
六十五文	米

○白米五拾石。三斗六升ありを割貳分の春減りし元米減り米各何程と問

谷 元米五拾七石 減米六石八斗四升

ケ 一割五分 減り率

五斗三升六升ハ 元米  
一割五分 減り率  
ハ 一斗米

○玄米七斗五升と春く白米六斗九升とある何割減り  
南と問

谷 八分減り

玄米 白米  
一割五分 減り率  
ハ 一斗米

○小の月渡し扶持米拾五斗扶持米割五分の春減りあり

此白米何程と問

谷 七石八斗四升八合七勺五毛

但其人扶持大月斗五升  
小月斗四升五合

ケ 一割五分 減り率  
ハ 一斗米  
一斗四升五合 減り率  
ハ 白米

○金三拾兩を出し玄米三拾五石を買春減り法あり  
其割五分引ケありて百文付斗式合五勺は是を賣る  
兩百六貫八百文あり此益金何程と問

谷 益金五兩

三十兩 減り率  
二十五石 益金  
一斗二合五勺 減り率  
六文八百文  
減率右同新



○廻米の運賃百石付三石五斗かり今米過三百五拾九石  
四斗九升六合九勺あり廻米及運賃米各を問

答  
廻米三百四拾七石三斗四升  
運賃米拾貳石五斗五升六合九勺

百石 運賃米 八斗

百石 廻米 八斗

利息

利息大槩

一 七兩貳分	金二兩二付三月	貳	反	四年	四	刻
一 拾兩		壹	反五卜		三	刻
一 拾貳兩		壹	反貳卜五厘		貳	刻五分
一 拾五兩		壹	反		貳	刻
一 貳拾兩		七	卜五厘		壹	刻五分
一 貳拾五兩		六	卜		壹	刻五分
一 三拾兩		五	卜		壹	刻

京籠刀目少

利

一	四拾兩き分ハ	三ト七厘五毛	七分五厘
一	五拾兩き分ハ	三ト	六分
一	六拾兩き分ハ	式ト五厘	五分
一	七拾五兩き分ハ	式ト	四分
一	百兩き分ハ	きト五厘	三分
一	百貳拾兩き分ハ	きト貳厘五毛	貳分五厘
一	百五拾兩き分ハ	きト	貳分

一 何拾兩き分ハ金き兩付何ト利ちるを見らふハ  
十五反 何ト 拾五反ハ金き分の指

何拾兩き分ハ年何割ちるを見らふハ

三兩 何割 三兩ハ金き分と十二月分

一 金き兩付何ト利ハ何拾兩き分ちるを見らふハ

十五反 何ト 何十兩

一 年何割ハ何拾兩き分ちるを見らふハ

三兩 何割 何十兩

一 年何割ハ金き兩付何ト利ちるを見らふハ

五ト 何割 五ト金割のきき月の利銀

一 金き兩付何ト利ハ年何割ちるを見らふハ

五ト 何ト 何割

○ 貳拾兩<sup>五</sup>分の利<sup>足</sup>は<sup>い</sup>く<sup>元</sup>金<sup>拾</sup>五<sup>両</sup>を<sup>八</sup>ヶ月<sup>借</sup>用<sup>す</sup>  
此利銀何程と問

答 銀九拾<sup>五</sup>両

元金 月数  
五十分 八  
二十<sup>五</sup>両 利根

○ 拾五兩<sup>五</sup>分の利<sup>足</sup>は<sup>少</sup>く<sup>元</sup>金<sup>三</sup>拾<sup>六</sup>両<sup>五</sup>分<sup>と</sup>五<sup>ヶ月</sup>是<sup>の</sup>借  
貸<sup>以</sup>此利銀何程と問

答 銀百八拾<sup>五</sup>両

元金 月数  
五十分 五  
十五<sup>五</sup>両 利根  
拾五<sup>両</sup>を<sup>拾</sup>五<sup>分</sup>は<sup>い</sup>く<sup>元</sup>金<sup>三</sup>拾<sup>六</sup>両<sup>五</sup>分<sup>と</sup>五<sup>ヶ月</sup>是<sup>の</sup>借  
貸<sup>以</sup>此利銀何程と問

○ 貳拾五兩<sup>五</sup>分の利<sup>足</sup>は<sup>い</sup>く<sup>元</sup>金<sup>貳</sup>百<sup>七</sup>拾<sup>五</sup>兩<sup>を</sup>七<sup>ヶ月</sup>借  
用<sup>す</sup>その利金何程と問

答 金拾九兩<sup>五</sup>分

元金 月数  
五十分 七  
二十五<sup>五</sup>両 利根  
貳百<sup>七</sup>拾<sup>五</sup>兩<sup>を</sup>七<sup>ヶ月</sup>借  
用<sup>す</sup>その利金何程と問

○ 元金七拾五兩<sup>を</sup>五<sup>ヶ月</sup>借<sup>用</sup>し<sup>元</sup>利<sup>合</sup>七<sup>拾</sup>八<sup>兩</sup>三<sup>分</sup>なり  
此利是年何割と問

答 壹割<sup>貳</sup>分

元金 月数  
七拾五<sup>兩</sup> 五  
元金 何割

右の如く少  
十一

○貳拾兩を分の利息は少く一年に三度の踊利を取何  
兩を分よ南を問

答 拾六兩付を分

十五月 何西

比	二十支	十五月
例	何支	十五月

○錢百文付を月の利息三文と四文と何れも各何支を分  
小南を問

答 三文ハ八兩を分 四文ハ六兩を分

九十六文 何支

比	九支	利息
例	何支	十五月

○金を分付を月銀三下と四下の利あり各何支を分  
分よ南を問

答 三下ハ 拾貳兩貳分付を分  
四下ハ 九兩を分付を分

利息 何支

比	利息
例	何支

○年貳割五分の利息あり利を利を加へて三年後元  
三年目元利合金千兩を元金を問  
答 元金五百拾貳兩

利息 利率

利率  
元金  
ハ  
初年元利

利率中  
元金  
ハ  
二年元利

利率再  
元金  
ハ  
三年元利

故  
利率再  
元金  
ハ  
元金

○元金五子兩あり年々割の利息は利を利と加へて四ヶ年償及此利息何程と問

答 貳千三百貳拾兩貳分

依前解  
利率三  
元金  
ハ  
四年元利  
故  
利率三  
元金  
ハ  
四年元利

布帛

一 鯨尺と曲尺ハ合曲尺と鯨尺ハと法ハ

一尺二寸五分

故鯨尺八鯨寸

○縮緬鯨尺ハと三丈五尺ハと曲尺ハと法ハと何程と問

答 四丈三尺七寸五分

又  
三丈六尺八寸

○曲尺を尺付三又七ト五厘此茶丸織鯨尺を丈六尺あり  
代銀何程と問

答 七拾五反

三又七ト五厘  
一丈六尺  
ハ 八  
ハ 八

○幅鯨尺を尺四寸五分長六尺五分の錦あり西尺上寸四方一  
坪付代銀七ト五厘かり惣代金と問 但西替六拾反

答 金拾九兩貳朱

全ラ。八中ハ 豊手坪  
名子  
六尺五分  
四寸五分  
ハ 惣代金  
六拾反

○木綿五尺五寸より三又三ト下かりを及の代銀と問

答 拾五反六ト

三又三ト  
二丈六尺  
五尺五寸  
ハ 一又代

例	比
二丈六尺	五尺五寸
一又代	三又三ト

但を及ハ貳丈六尺

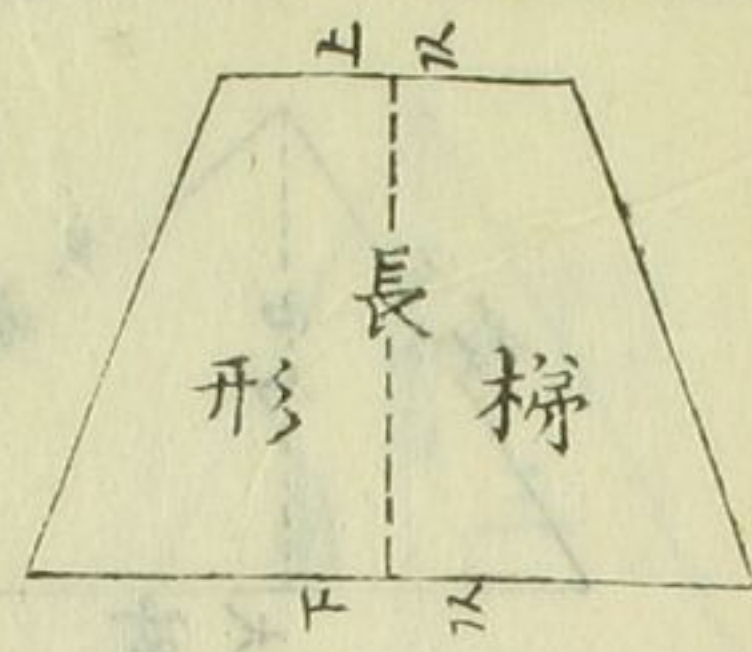
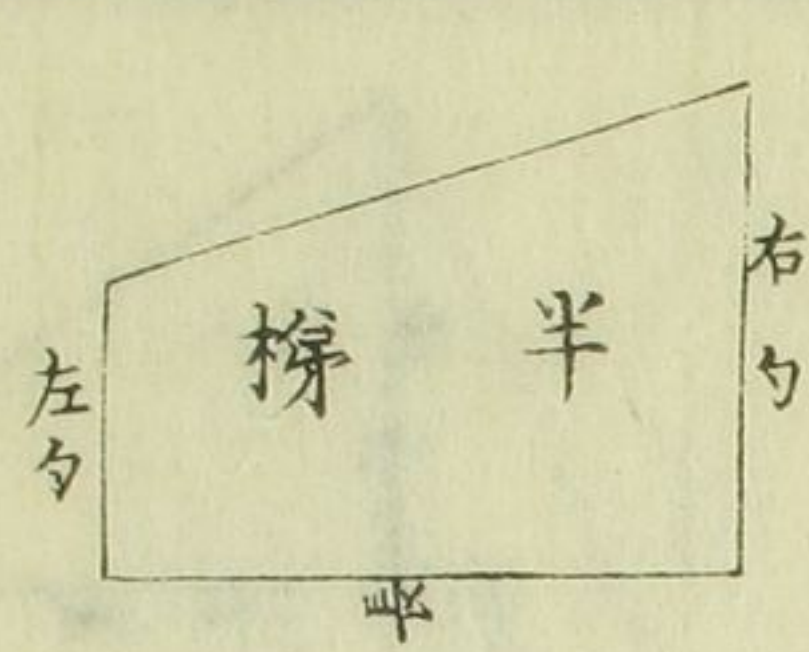
○羽二重三匹代五百拾八反四トよりを丈八尺の代銀と問

答 五拾七反六ト

五百八反四ト  
一丈八尺  
五丈四尺  
三丈  
ハ 一丈八尺代

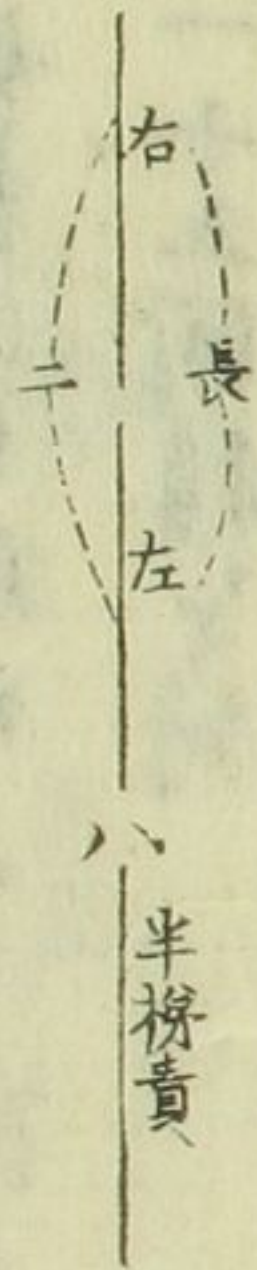
例	比
一丈八尺	三丈
代銀	五百八反四ト

但を匹ハ五丈四尺

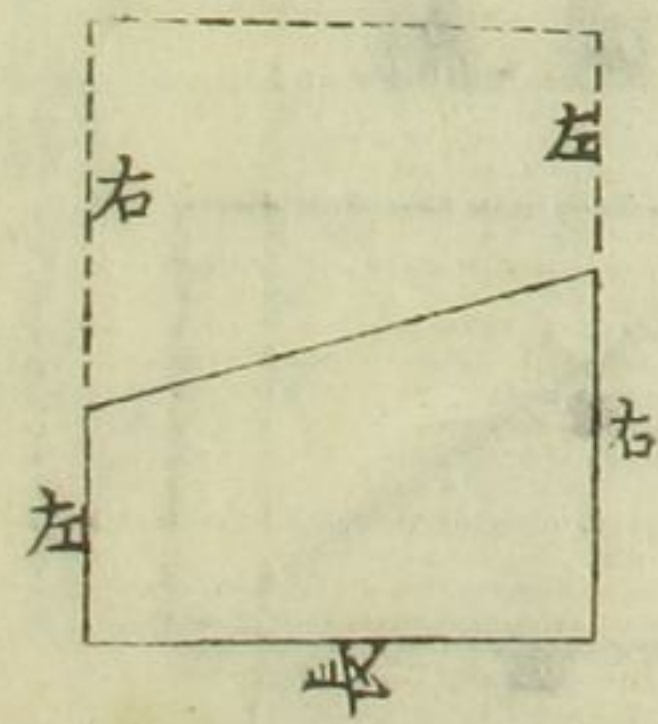


如右の半梯形あり右九間左六間長一十六  
間積と問

答 一百二十歩

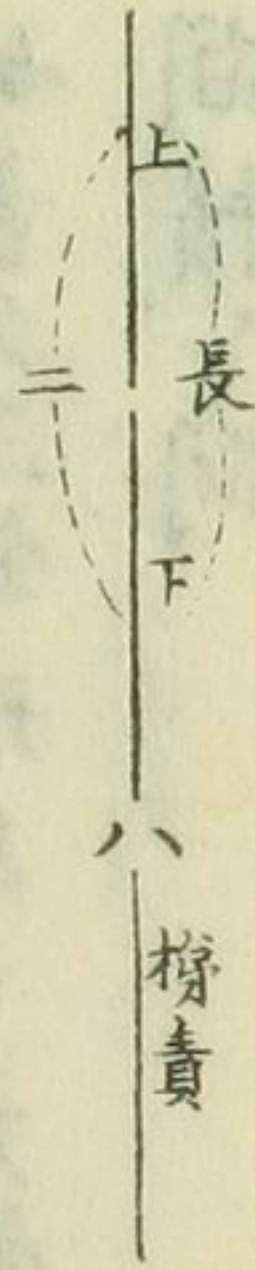


図解

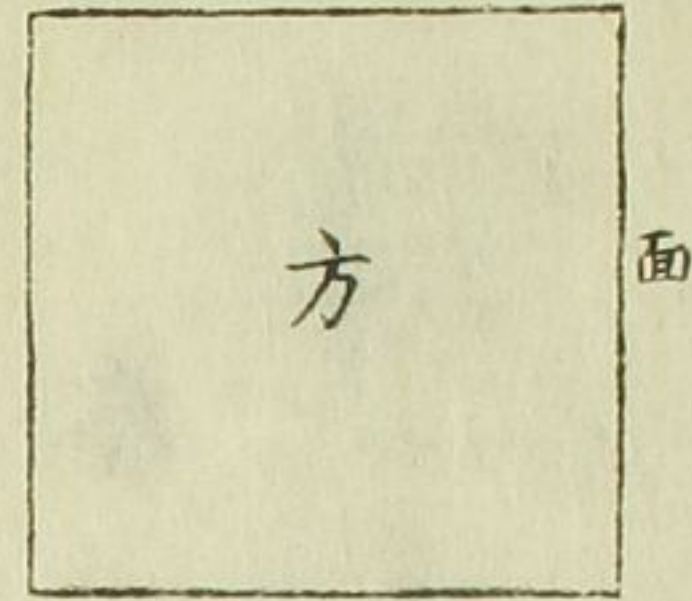
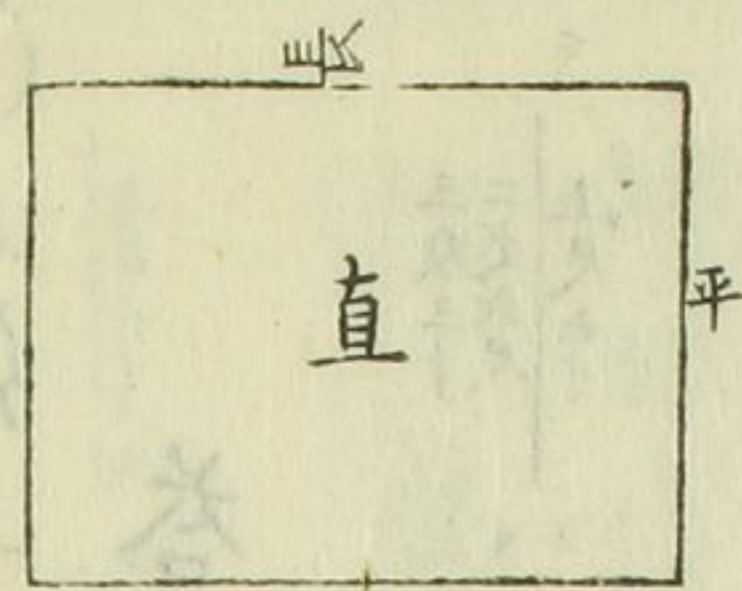
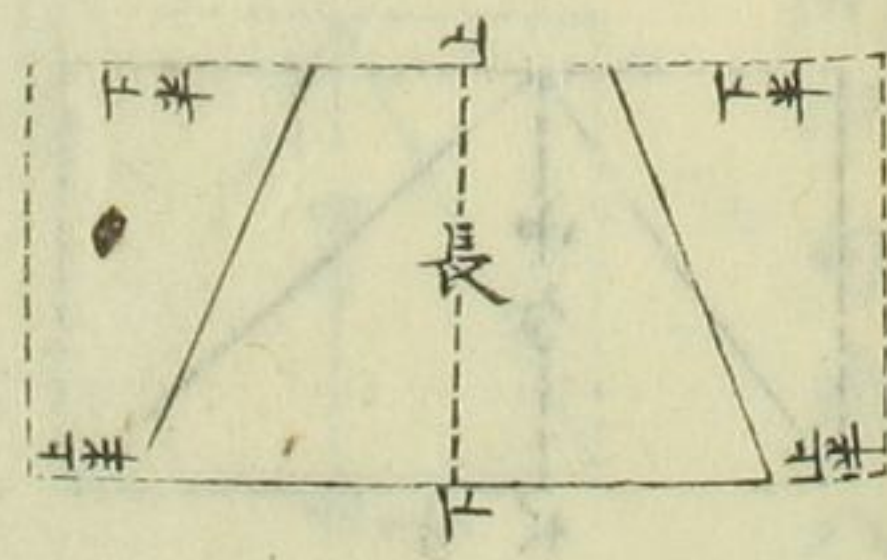


如右の梯形あり上頭八間下頭一  
十二間長一十八間積と問

答 一百八十歩



図解



平積

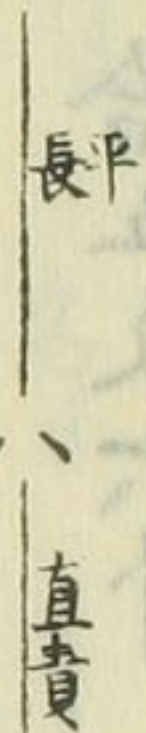
如右の方田あり方面二十五間積と問

答 六百二十五歩  
一問四方と  
一歩と云

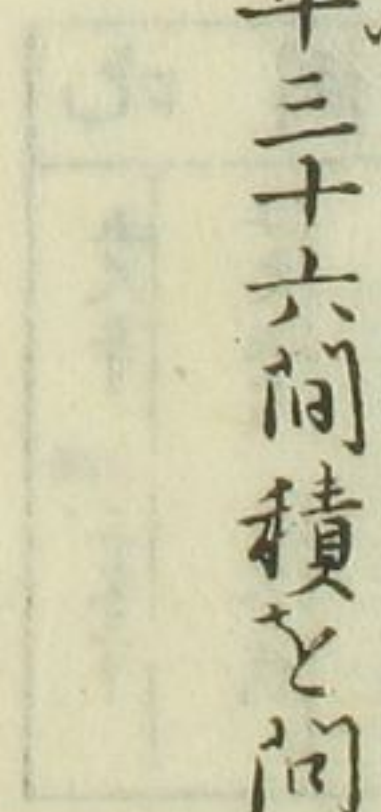
方面中、方積

如右の直形あり長四十八間平三十六間積と問

答 一千七百二十八歩



図解

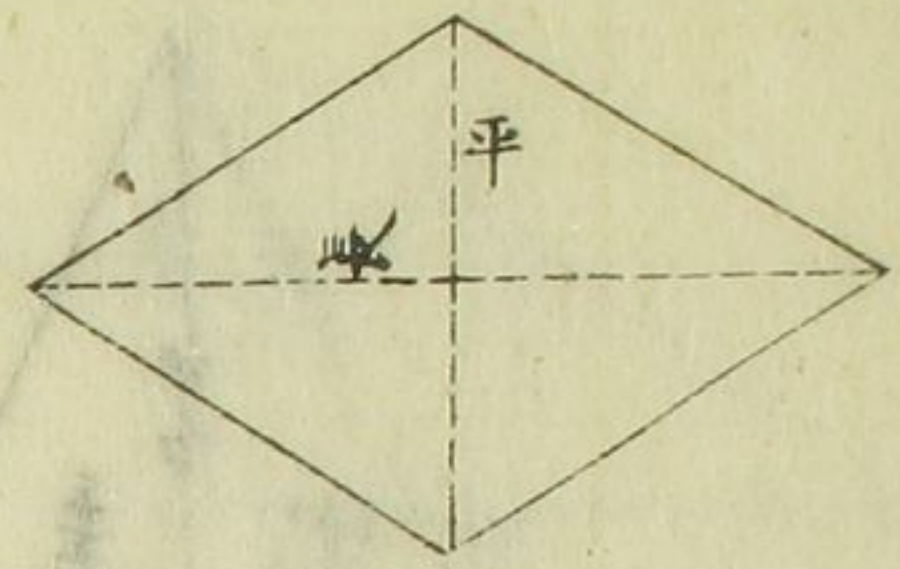






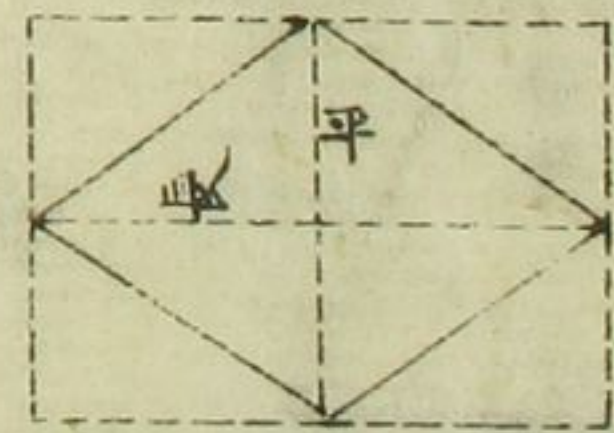
如面の梭形あり長四寸平三寸積と問

答 六寸一寸四方一坪  
と一寸と



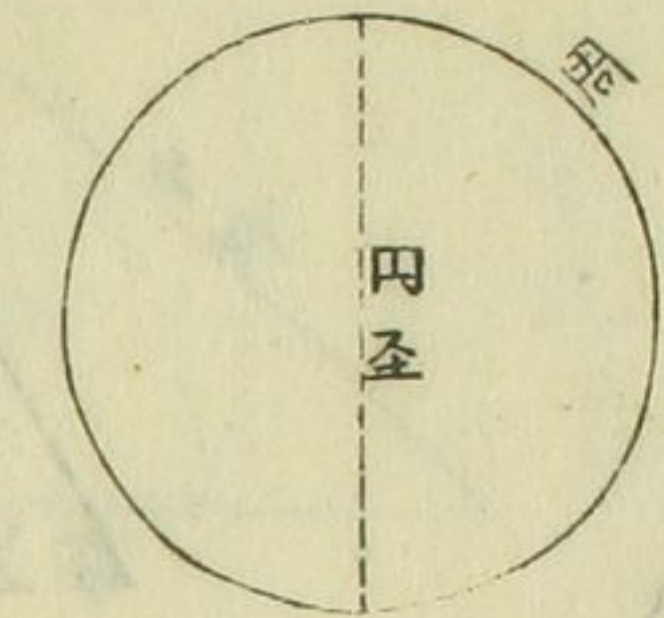
長  
平  
梭積

解



如面の平圓あり圓徑一十寸周及積と問

答 周三十一寸四分一厘五毛 有奇  
積七十分五分三厘九毛 有奇



三々四五九二六五

ハ 四周率

四周法三二六と云ハ此畧

故

〇七七八五三九八二

ハ 四周率

四責法七九と云ハ此畧

四周率

四責率

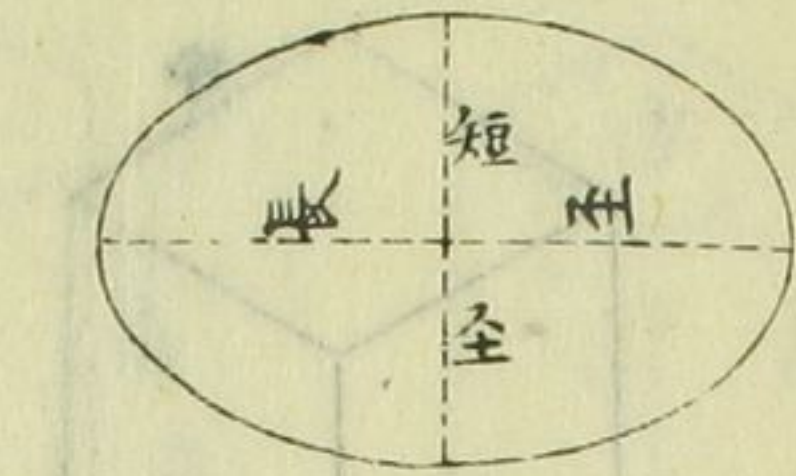
四全中

四責

如面の楕圓 圓壙と斜に截 あり長徑二十八寸短徑

二十一寸積と問

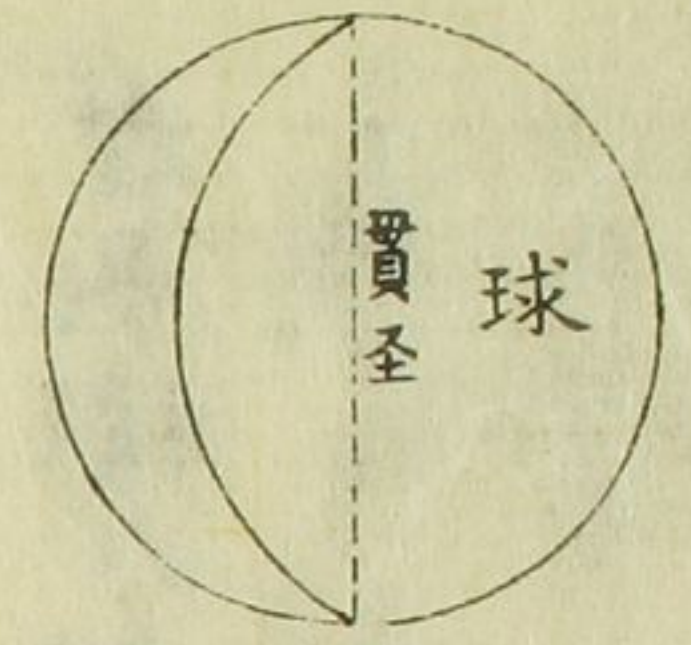
答 四百六十一寸八分 有奇



長短率

楕圓積

右平積の大概を擧ぐ餘ハ推し知るべし若是を檢地  
に用る時各の積を求先三十歩より上を田の法三百歩  
に除き 果ノ責 三百歩 八 及別 と得るなり楕圓積の部と  
見合ふべし

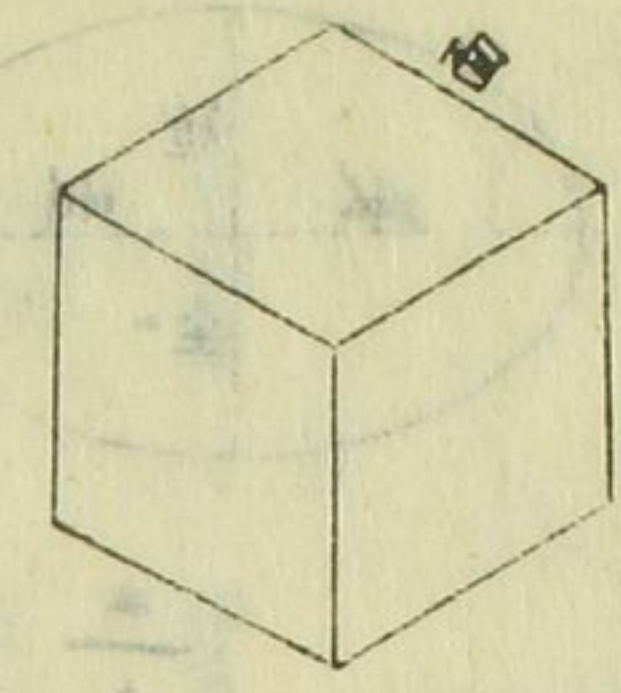


立積

如箇の球あり貫徑一十寸積を問

答 五百二十三寸五分九厘 有奇

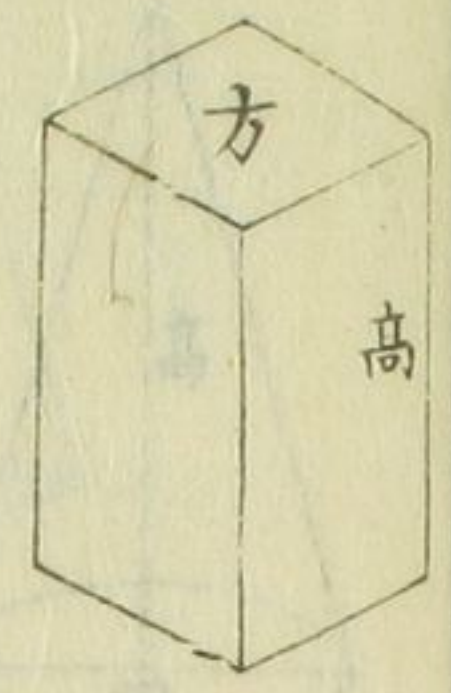
球積率  
貫徑再  
六  
故 〇ケ五三三九八七五  
八 球積率



如箇の立方あり其方面三十寸積を問

答 二万七千寸

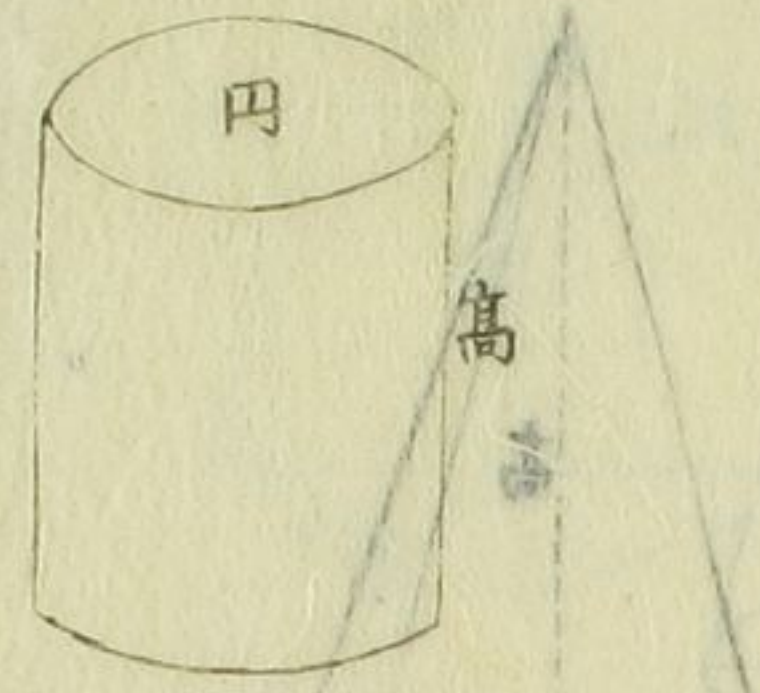
立方積  
面再  
ハ



如箇の方堡壻あり其方面六寸高八寸積を問

答 二百八十八寸

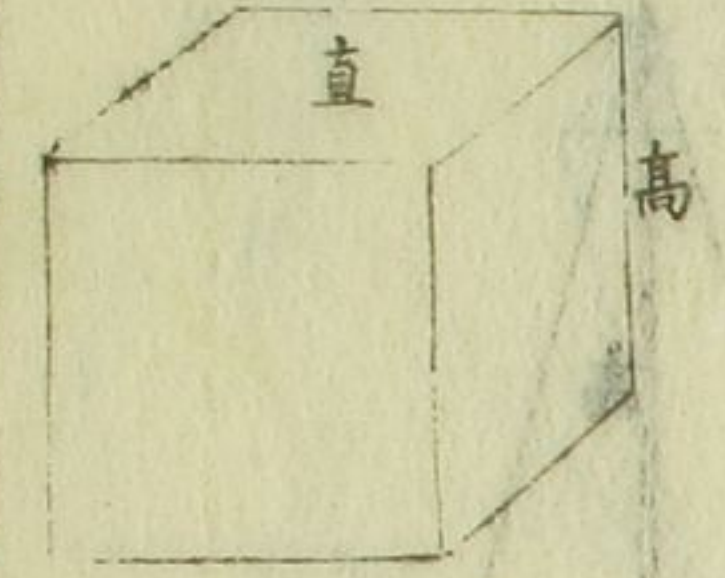
方堡壻積  
面再  
ハ



如箇の圓壻あり其圓徑六寸高八寸積を問

答 二百二十六寸一分九厘二毛 有奇

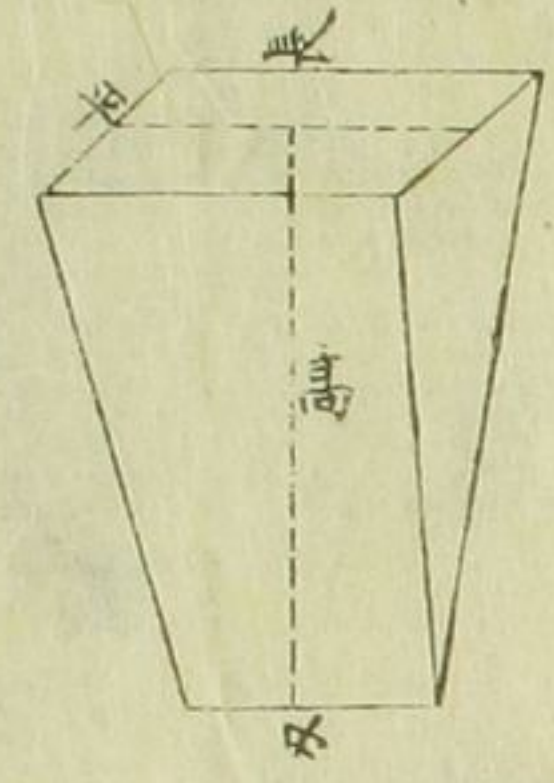
圓壻積  
貫徑再  
ハ  
圓壻積



如箇の直堡壻あり其直長六十四寸直平四寸高七寸積を問

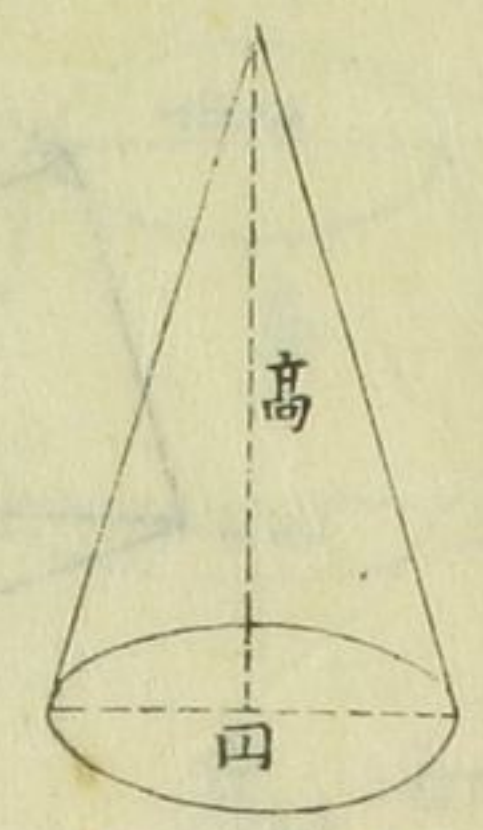
答 二十二万五千〇四十寸

古瓦刀母少



如畚の楔形あり直長二十五寸直平一十寸  
及二十寸高三十寸積と問

答 六百三十寸



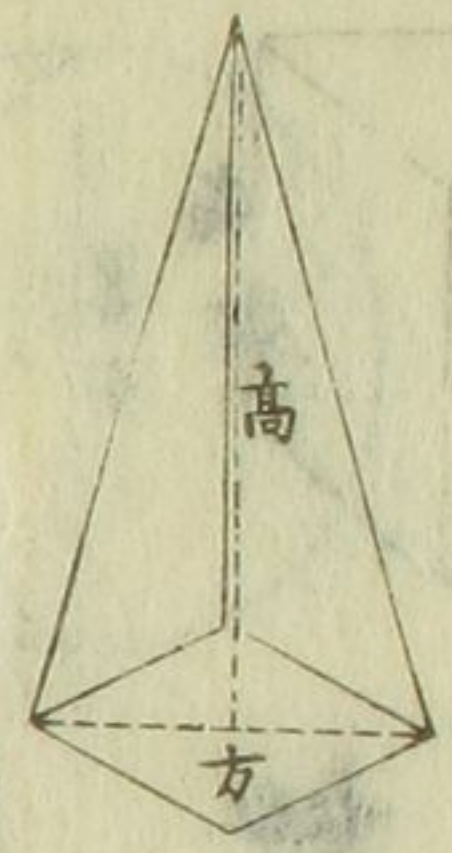
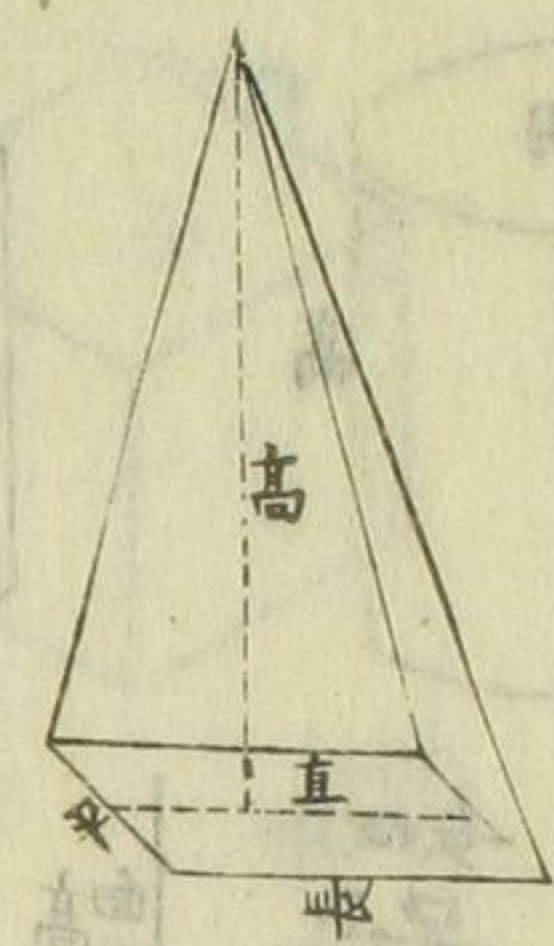
如畚の圓錐形ありと圓徑五寸高二十二寸  
積と問

答 七十八寸五分三厘九毛 有奇

高  
積  
三  
八  
四  
錐  
責

廿三

古瓦刀母少



如畚の方錐形あり方面五寸高二十二寸積と問

答 一百寸

高  
面  
三  
八  
方  
錐  
責

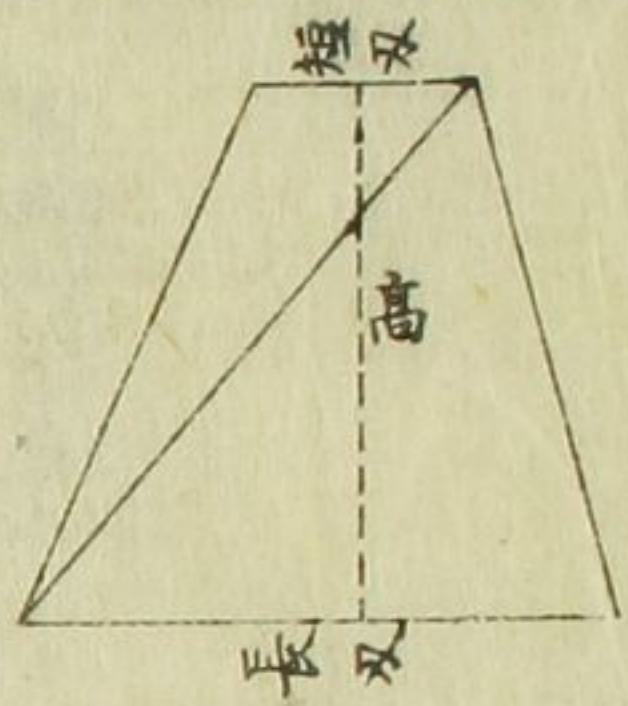
如畚の直錐形あり長六寸平四寸高二十三寸積と問

答 九十六寸

高  
長  
三  
八  
直  
錐  
責

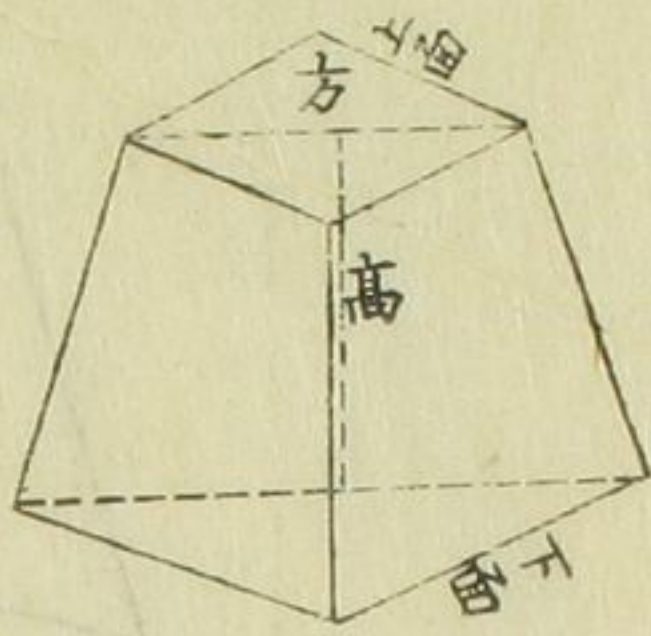
長稿  
直  
錐  
責

廿三



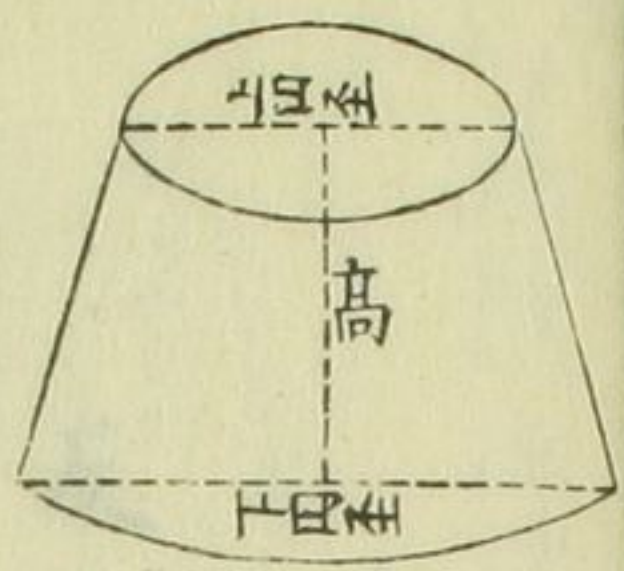
如畚の両又形あり長又七寸短又九寸  
高一十二寸積を問  
答 一百二十六寸

高 短又  
長又 六  
八 兩又積



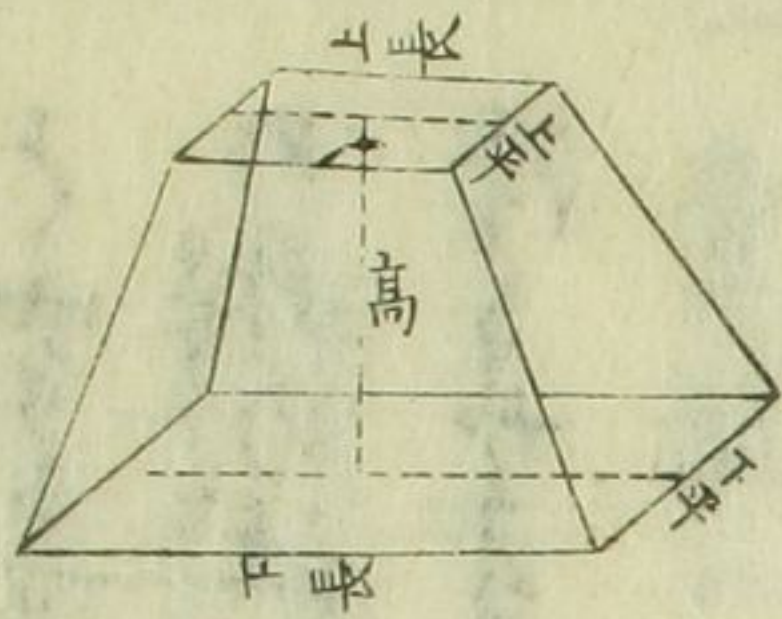
如畚の方基あり上方面九寸下方面一十二寸  
高一十五寸積を問  
答 一千六百六十五寸

上方中 高  
下方中 方基積  
三 八



如畚の圓基あり上圓徑六寸下圓徑一十寸  
高一十二寸積を問  
答 六百一十五寸七分四厘三毛 有奇

上圓中 高  
下圓中 圓基積  
三 八



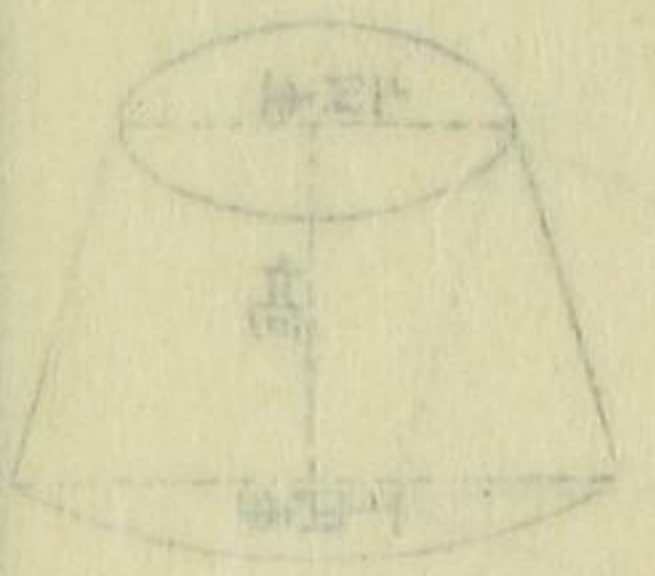
如畚の直基あり上長四寸上平三寸下長六寸  
下平五寸高九寸積を問  
答 一百八十三寸

下長中 高  
上長中 直基積  
六 八

右の凡刀學抄

右の凡刀學抄

右立積の大槩を擧ぐ餘ハ推く知く若是より  
 く容る所乃升目を知くんと要するは各の積を求  
 め升の法 原寸七カ 品寸九カ ハ 六寸八五 にく刻ハ 某立責 六十四カ八五 ハ 升数 を  
 得るなり



高二十寸八分  
 六寸八五

畝税

反歩の事

- 一 壹町ハ 三千歩 拾反なり
- 一 壹反ハ 三百歩 拾畝なり
- 一 壹畝ハ 三十歩

き畝より下三十歩は満ざるそのハ場歩何拾何歩とある  
 かり故に坪数と三百歩はく刻ハ反別とある田の法三と  
 して是なり

- 一 壹歩ハ 壹間四方なり





野川

答 三ツ七分五厘

取米 八 免

○反別々畝拾五歩取米貳升貳合五勺反取と問  
答 反米壹斗五升

一七 十五歩 八 子

取米 一及 八 及米

例 比	
一及	一七十五歩
及米	二升六合

○本途米五拾五石三斗あり此斗立米何程と問

答 斗立五拾八石四斗六升

但 本米三斗五升子 延米貳升より

三斗五升 二升 斗立米 又 斗立米

○取り米五拾七石四斗あり口米と問

答 口米壹石六斗四升

但 三斗五升子 口米壹升

一升 口米 三斗五升

例 比	
三斗五升	一升
口米	口米

○取り米三拾五貫八百文あり口永と問

答 口永壹貫。七拾四文

但 永壹貫文子 口永三拾文

永三十文 口永 永一ノ文

例 比	
一ノ文	永三十文
口永	口永

点算の

七

○高百石付傳馬宿入用米六升六尺給米式  
斗の清蔵前入用永貳百五拾文のかる是を三後  
と云高貳百七拾五石のり各何程と問

答

傳馬宿入用 一斗六升五合  
六尺給米 五斗五升  
清蔵前入用 六百八拾七文

高 六升 八付入用

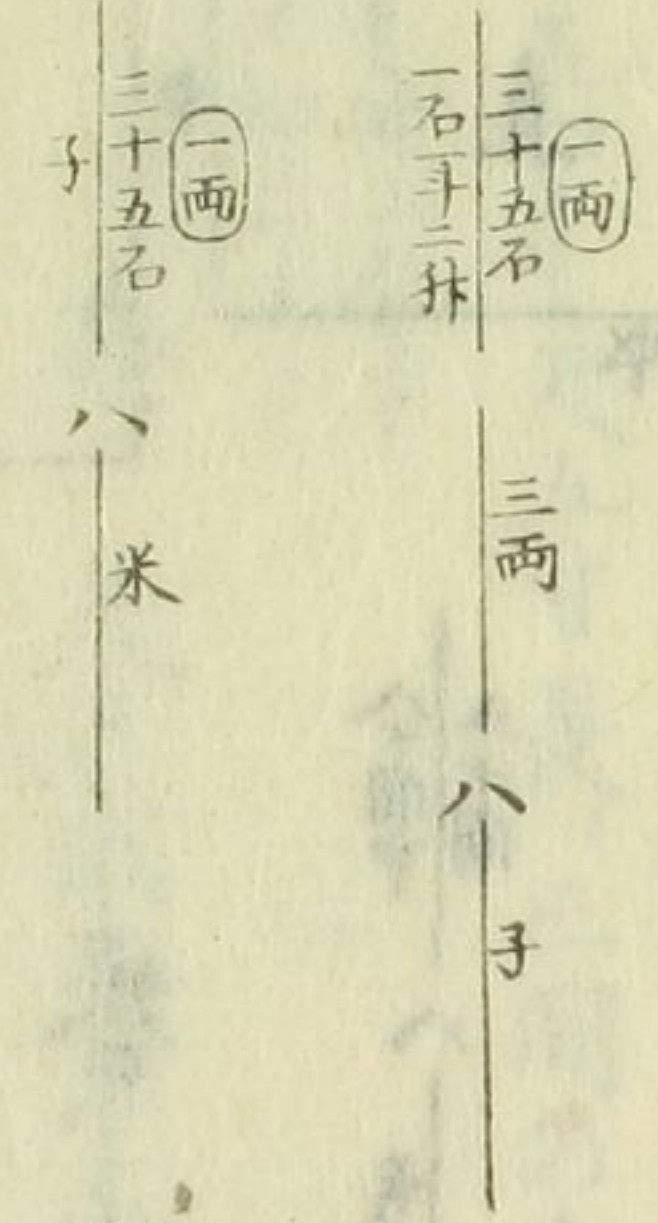
高 六尺給米

高 永三百五十五 中系入用

○石代相場金七兩二付石七斗武升比相場より  
米三拾五石付金三兩増と高直段子用と付何程

問

答 石七斗武升合八勺有奇



例	比
一兩	三十五石
米	代金
	三十五石

○本免五ツ三分五釐かり上田石盛十四中田石盛十二  
下田石盛十各反取と問

答

上田 七斗四升九合  
中田 六斗四升貳合  
下田 五斗三升五合



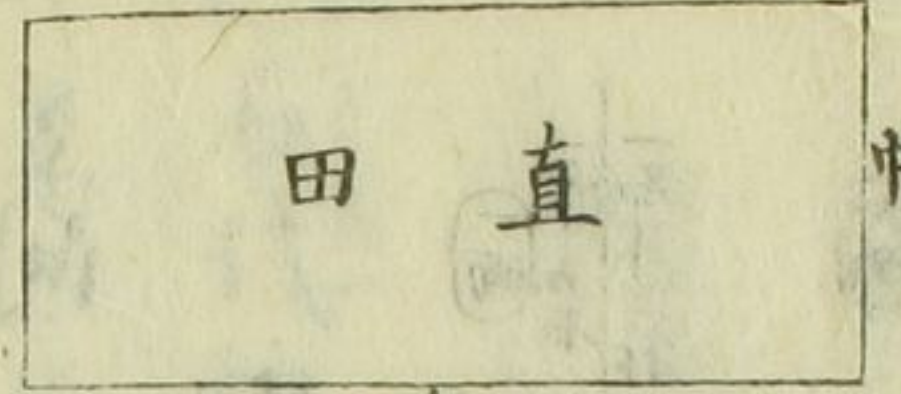
里の片不...

免<sub>上</sub> 八 上及五  
免<sub>下</sub> 八 下及五  
免<sub>中</sub> 八 中及五

方田

方田八拾間四方あり今幅五拾間の直田と  
取替るる長サ何程と問

答 長サ百貳拾八間



八間中  
五十間

經營

○元口を尺五寸長サ三間の木あり尺メと問

但サ尺角長サ貳間と尺メを本と云

元口を尺五寸  
細くつくり

答 尺メ貳本を分六重 六入

二間 八尺積 定法二〇ケと云 長サ尺の付ハ是サ六尺と云  
子定法十二と云

元口 長サ 平均差渡 尺メ 毛限 四本五入

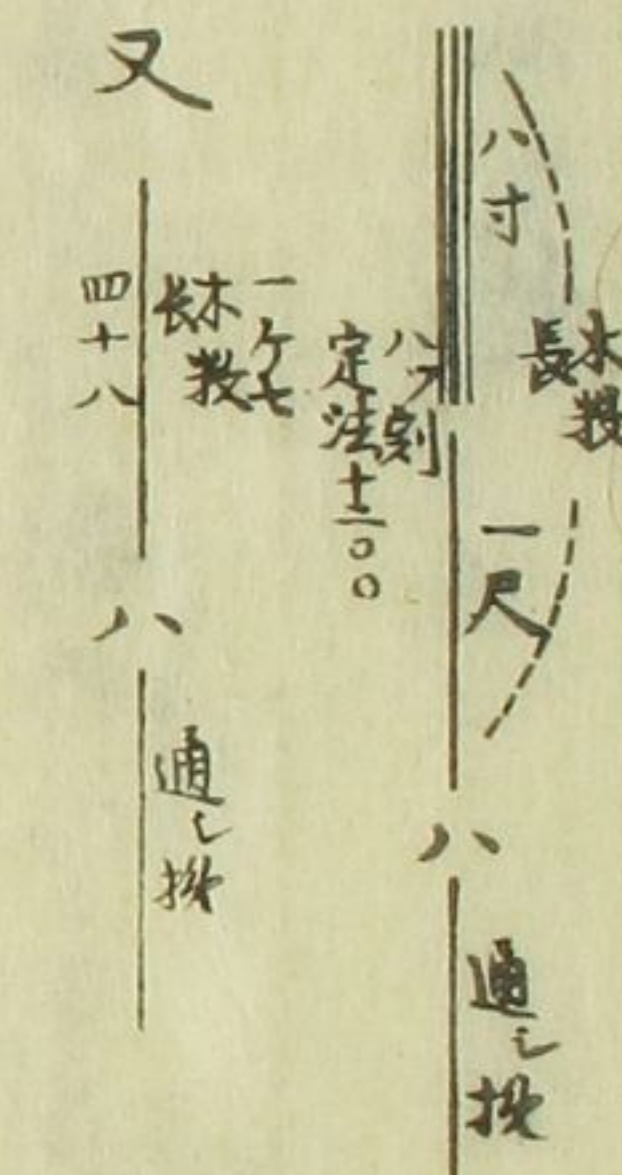
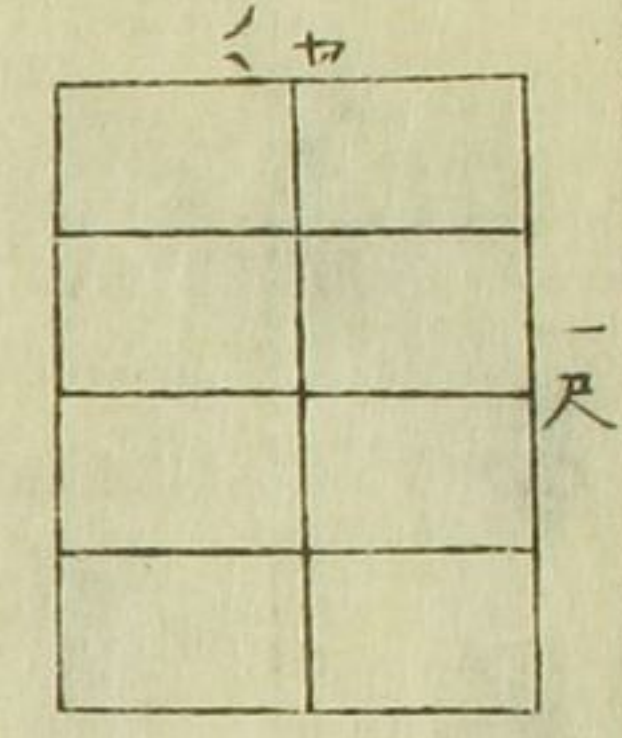
○長サ七間半目通りを丸。五寸廻りの木あり尺メと問

答 尺メ貳拾七本四分六厘八毛 但月通りハ元口より  
まじ間上と云

普徳 廿九

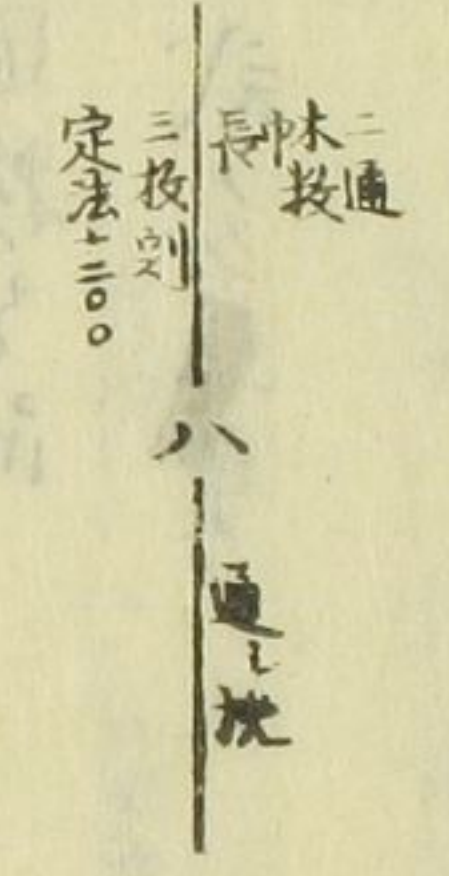
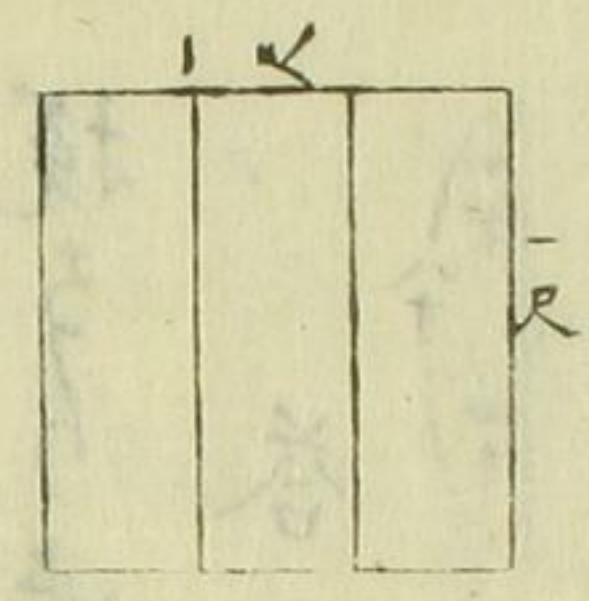


異...  
...



○幅<sup>あつち</sup>一尺厚<sup>あつち</sup>三寸三分長<sup>あつち</sup>六尺五寸の板<sup>い</sup>数<sup>かず</sup>四十八枚あり  
但<sup>たゞ</sup>是<sup>こゝ</sup>尺角<sup>じやくかく</sup>三枚割<sup>さんまいわり</sup>式<sup>しき</sup>通<sup>とほ</sup>挽<sup>ひ</sup>可<sup>べ</sup>く通<sup>とほ</sup>挽<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>

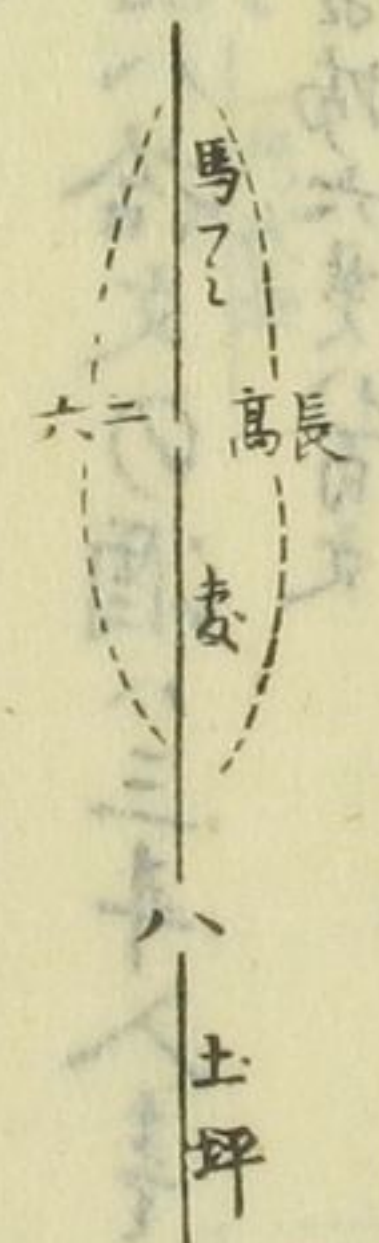
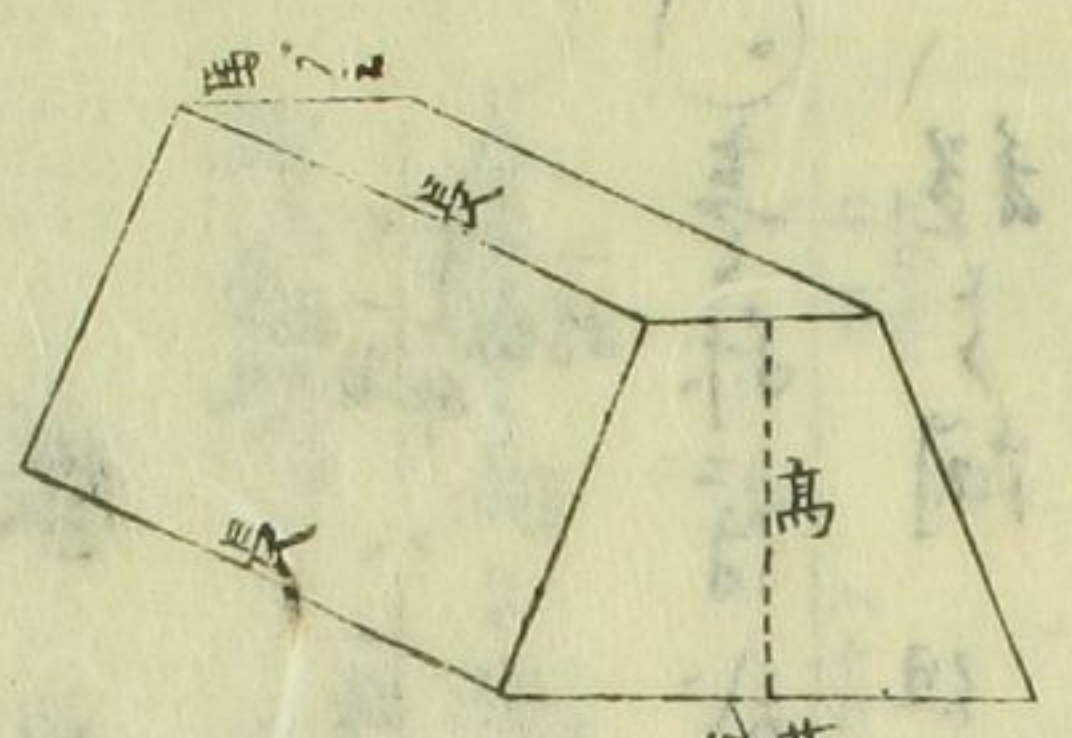
答 拾七通三分三重



○場<sup>ば</sup>長<sup>なが</sup>五拾八間馬<sup>うま</sup>踏<sup>ふ</sup>三間<sup>さん</sup>表<sup>へ</sup>八間<sup>はつ</sup>高<sup>たか</sup>五尺土<sup>つち</sup>坪<sup>へい</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>

答 貳百六拾五坪八合 三并

但<sup>たゞ</sup>是<sup>こゝ</sup>坪<sup>へい</sup>八四方<sup>はつしやう</sup>高<sup>たか</sup>六尺<sup>ろくしやく</sup>より



○蛇<sup>へび</sup>籠<sup>かご</sup>百三拾八本<sup>ひゃくさんじゅうはちほん</sup>差<sup>さ</sup>渡<sup>わたり</sup>一尺五寸石<sup>いし</sup>坪<sup>へい</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>

答 三拾四坪と合六八

但<sup>たゞ</sup>是<sup>こゝ</sup>坪<sup>へい</sup>五間<sup>ごかん</sup>の<sup>の</sup>定<sup>ぢやう</sup>法<sup>ぽう</sup>より  
石<sup>いし</sup>坪<sup>へい</sup>の<sup>の</sup>土<sup>つち</sup>坪<sup>へい</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>

用<sup>もち</sup>長<sup>なが</sup>差<sup>さ</sup>法<sup>ぽう</sup>五  
三六

定<sup>ぢやう</sup>法<sup>ぽう</sup> 〇ケ<sup>け</sup>二<sup>に</sup>合<sup>が</sup>四<sup>し</sup>六<sup>ろく</sup>八<sup>はち</sup>七<sup>しち</sup>五<sup>ご</sup>

定<sup>ぢやう</sup>法<sup>ぽう</sup> 八 石<sup>いし</sup>坪<sup>へい</sup>

占<sup>うらな</sup>見<sup>み</sup>刀<sup>やう</sup>...

雜題

○三斗六升入の酒拾駄付金貳拾五兩より三斗の代銀

何程と問

但三駄ハ貳拾  
兩替六拾五

答 三斗五七十五兩

例	比
一斗	三斗
代銀	六十五兩

○三斗六升入の酒拾駄付金貳拾五兩より三斗入を三斗より代金何

程と問

但後お坊六貫八百文

答 金三兩五分

例	比
一斗	三斗
代銀	三貫五文

九斗六升  
六斗八升  
八 兩錢  
名子



○金三兩より將酒油五樽各八升入りて三斗の代錢何

程と問

但兩替六貫六百六拾四文

答 百六拾四文

例	比
一斗	五斗
代錢	一兩替

九斗六升  
六斗八升  
六斗八升  
八 一斗代銀  
百六拾四文

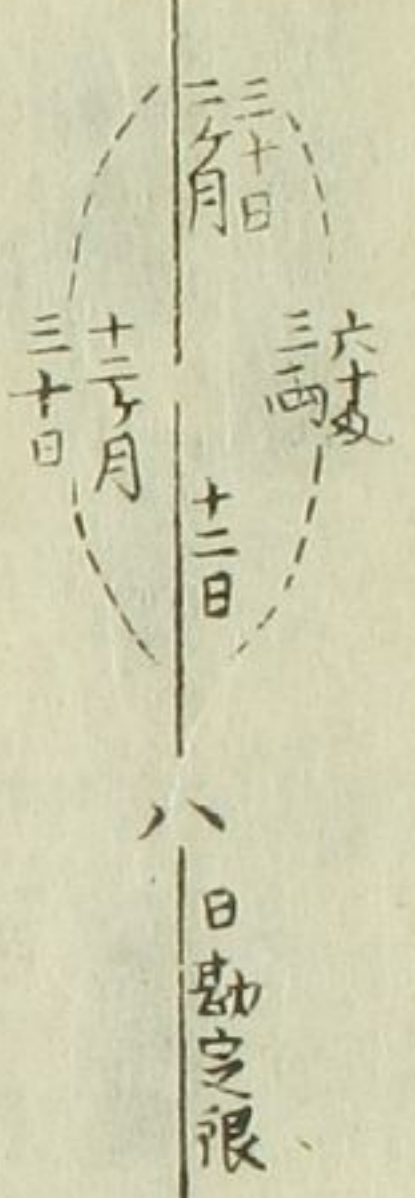
○三斗六升入の酒拾駄付金貳拾五兩より三斗入を三斗より代金何

三斗六升入の酒拾駄付金貳拾五兩より三斗入を三斗より代金何

勘定何程と問

答 三拾六枚

但兩替六拾枚

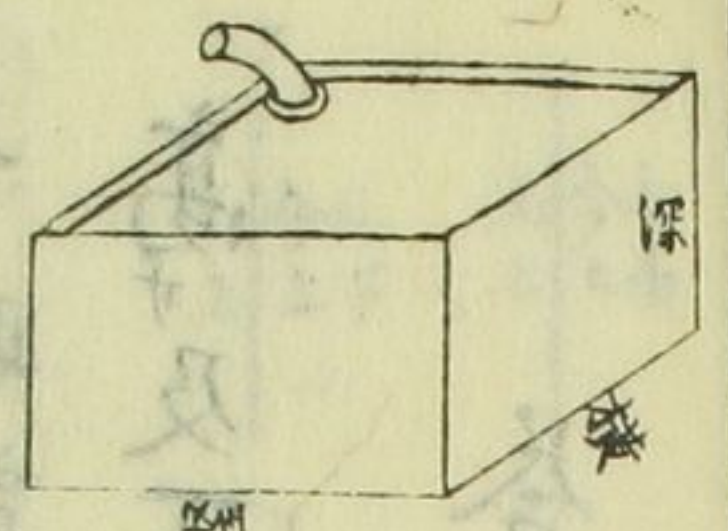


例	比
三月十日	三替
三月二十日	六替
三月三十日	勘定紙

障子紙一ろ幅貳尺六寸四分美濃帛丈六拵より  
 美濃紙幅糊一ろを除き寸三寸貳分是より  
 障子八枚と張り美濃紙何帖と問  
 但替帖四十八枚

答 貳帖

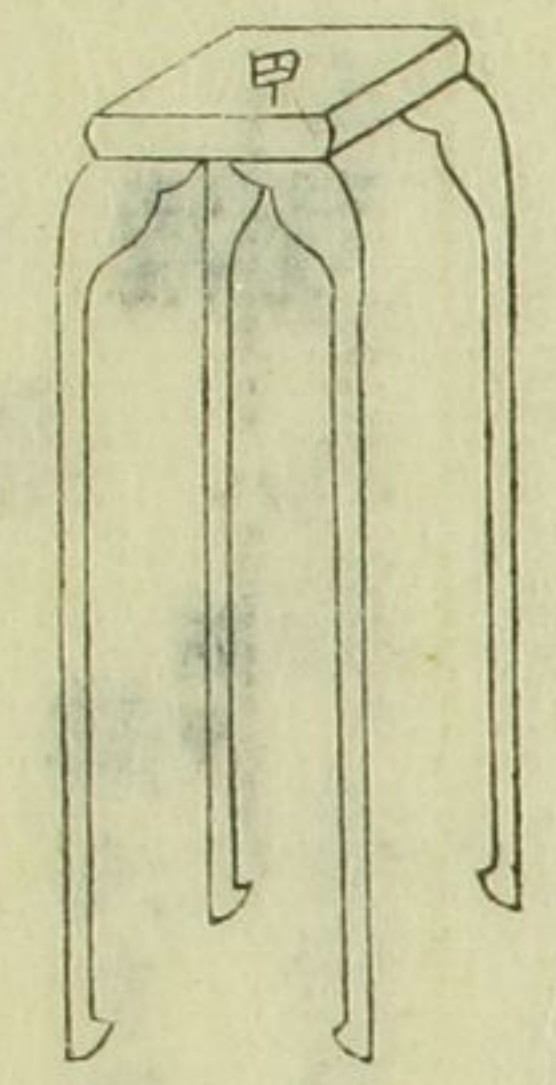
八枚  
 三寸五分  
 一尺三寸五分  
 四十八枚



如苗の吸筒を八合入り作りんと内張り堅  
 五寸横四寸八分。二毛巾と深と問

答 貳寸五分六厘

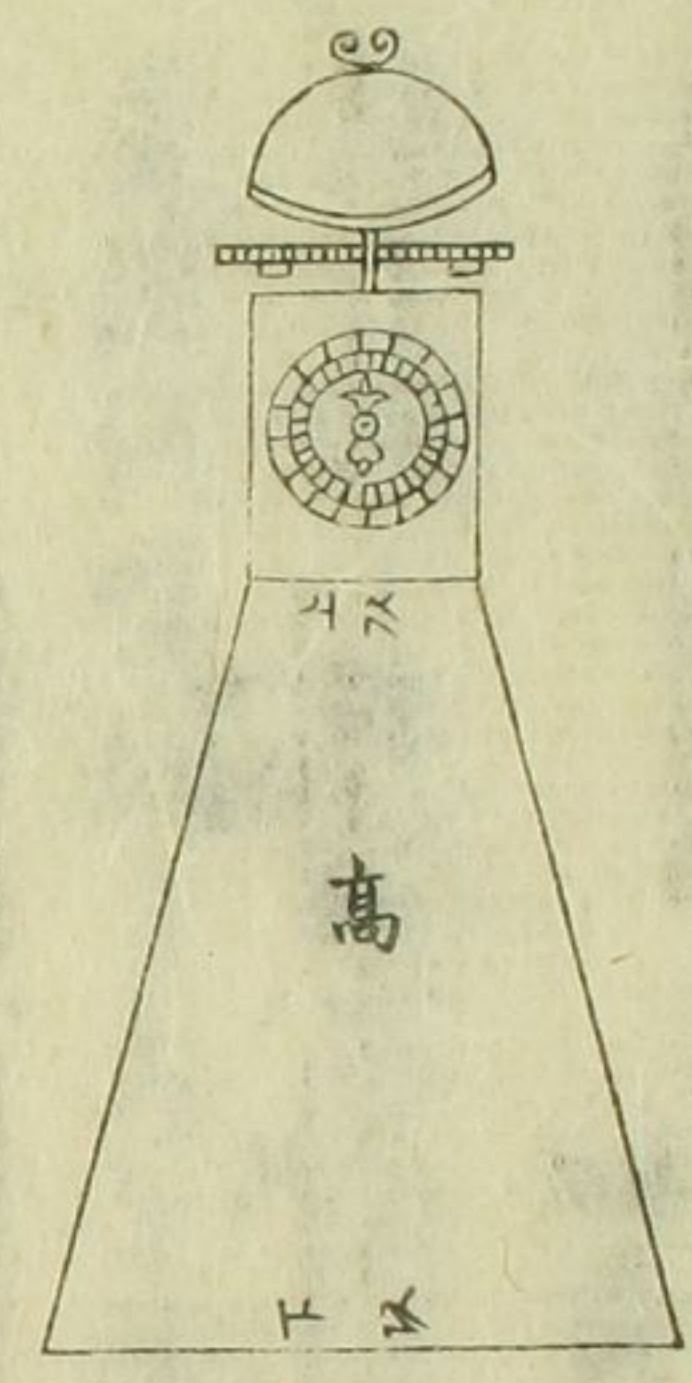
二寸七分  
 四寸五分  
 八  
 井ノ法



如苗の花臺あり甲四寸四方五分  
 尺貳寸今高き寸三寸五分ありと  
 右の恰好よりいへ新甲何寸

四方と問

答 新甲四寸五分四方



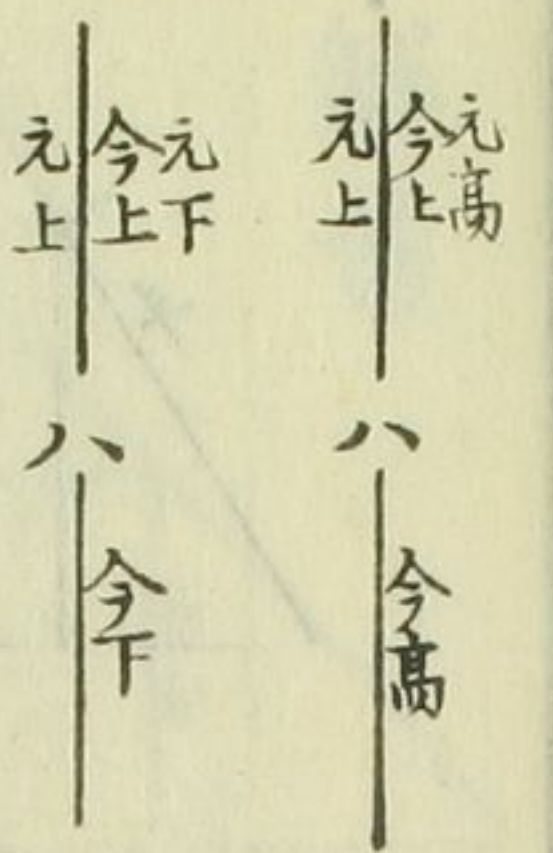
如畵の時計臺あり上頭  
三寸七分五厘下頭八寸高  
尺式寸五分あり今是より

例 比	
新高	元高
新甲	元高

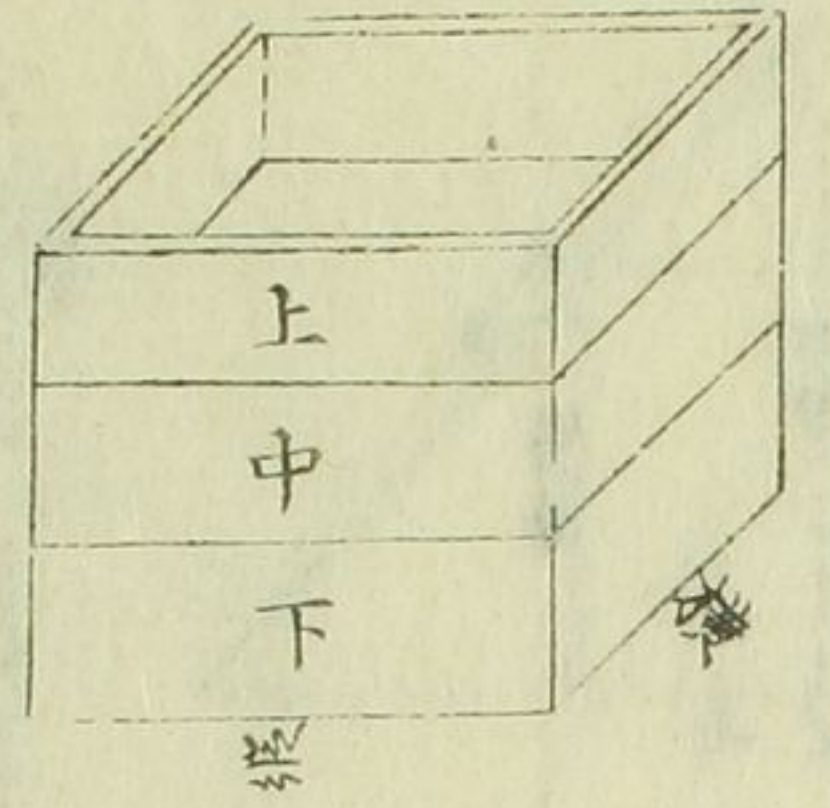
小時計臺を作らん上頭式寸式分五厘あり  
高及下頭各何程と問

答

高七寸五分  
下頭四寸八分



例 比	
元上	今上
元高	今高
元下	今下

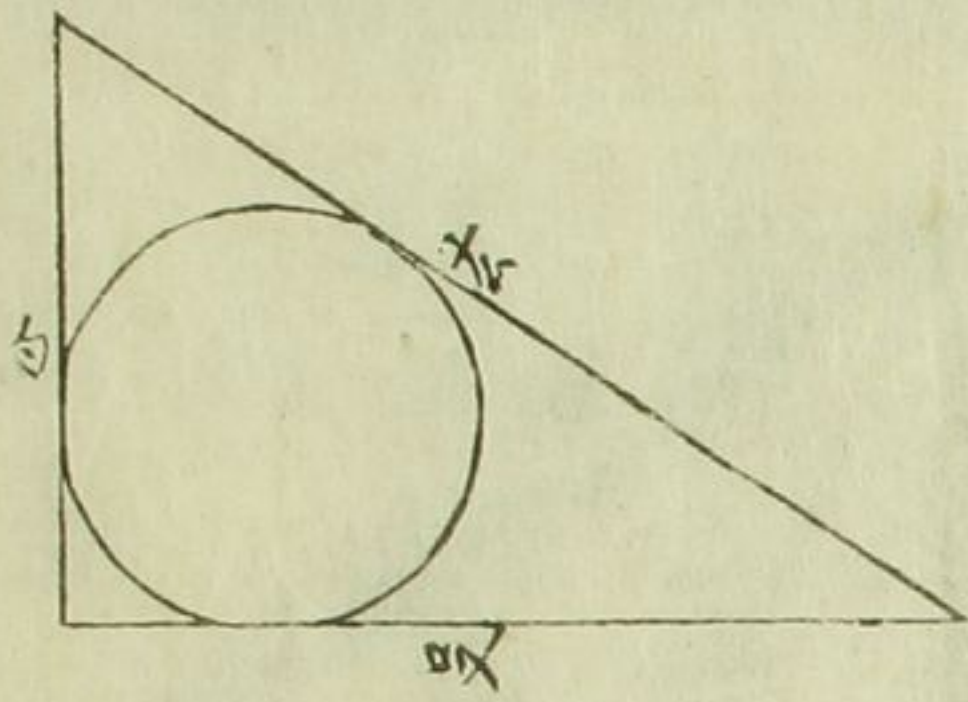


上中下各何程と問

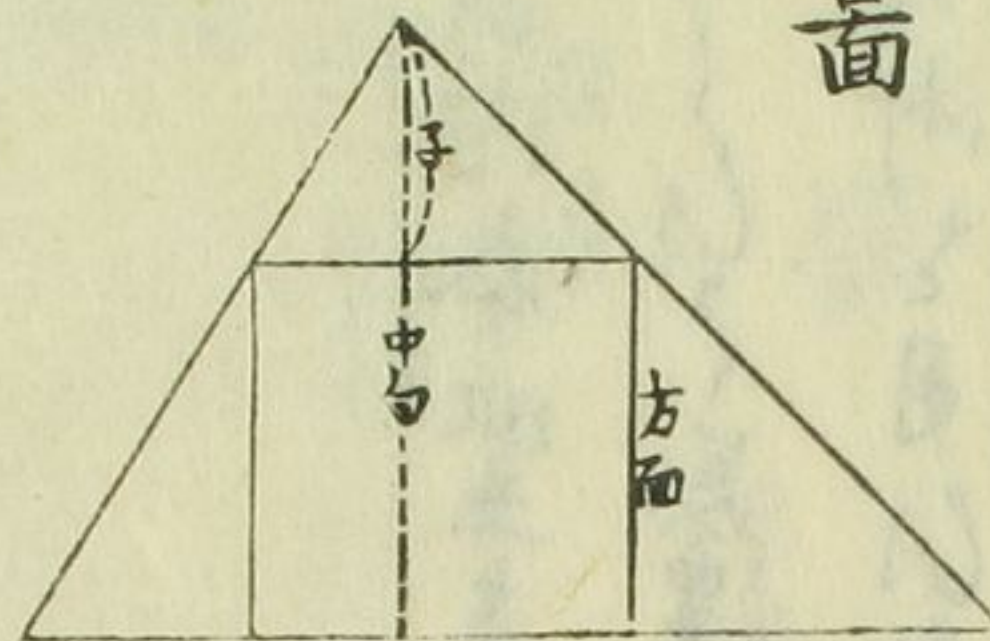
如畵の三重組長手の筈あり縦を尺二寸  
五分横八寸上の深三寸中の深五寸下の  
深七寸とる右の恰好なり今とる  
三重組と作らん縦を尺二寸横及

答

横六寸四分 上深二寸四分  
中深四寸 下深五寸六分

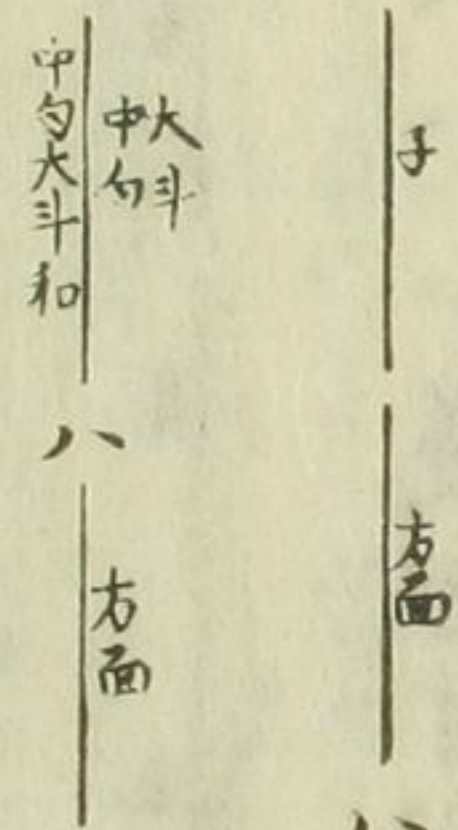


解圖

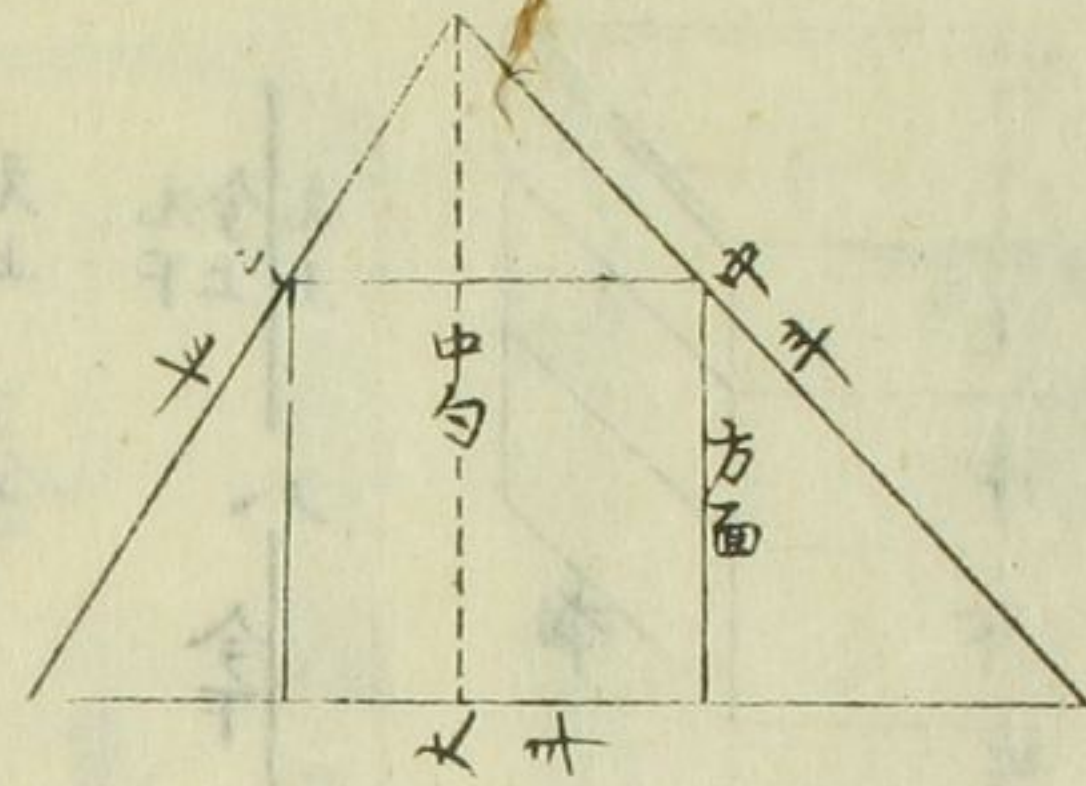


如圖の勾股形の内へ圓を容るる勾五寸股一十二寸弦一十三寸に圓徑何程と問

答 四寸



例 比	
中白斗和	大斗
方面和	方面



如圖の三斜形の内へ方と容る大斜六寸中白九寸六分は方面何程と問

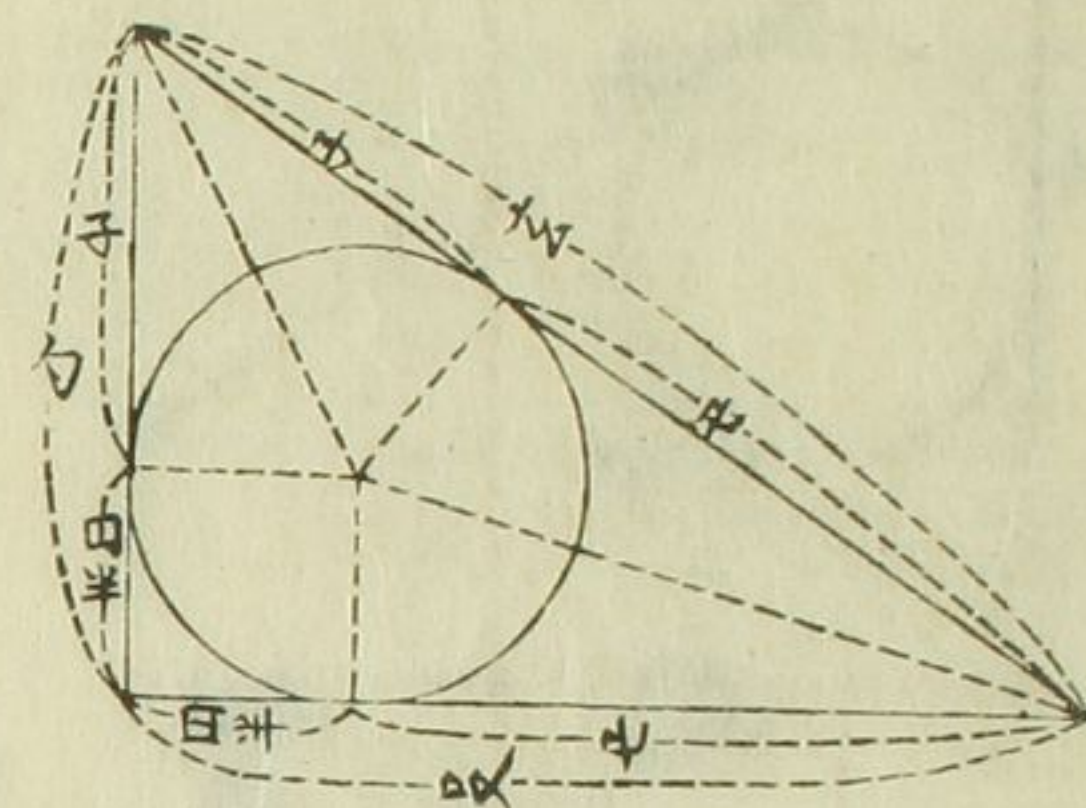
答 六寸

中白	方面
大斜	方

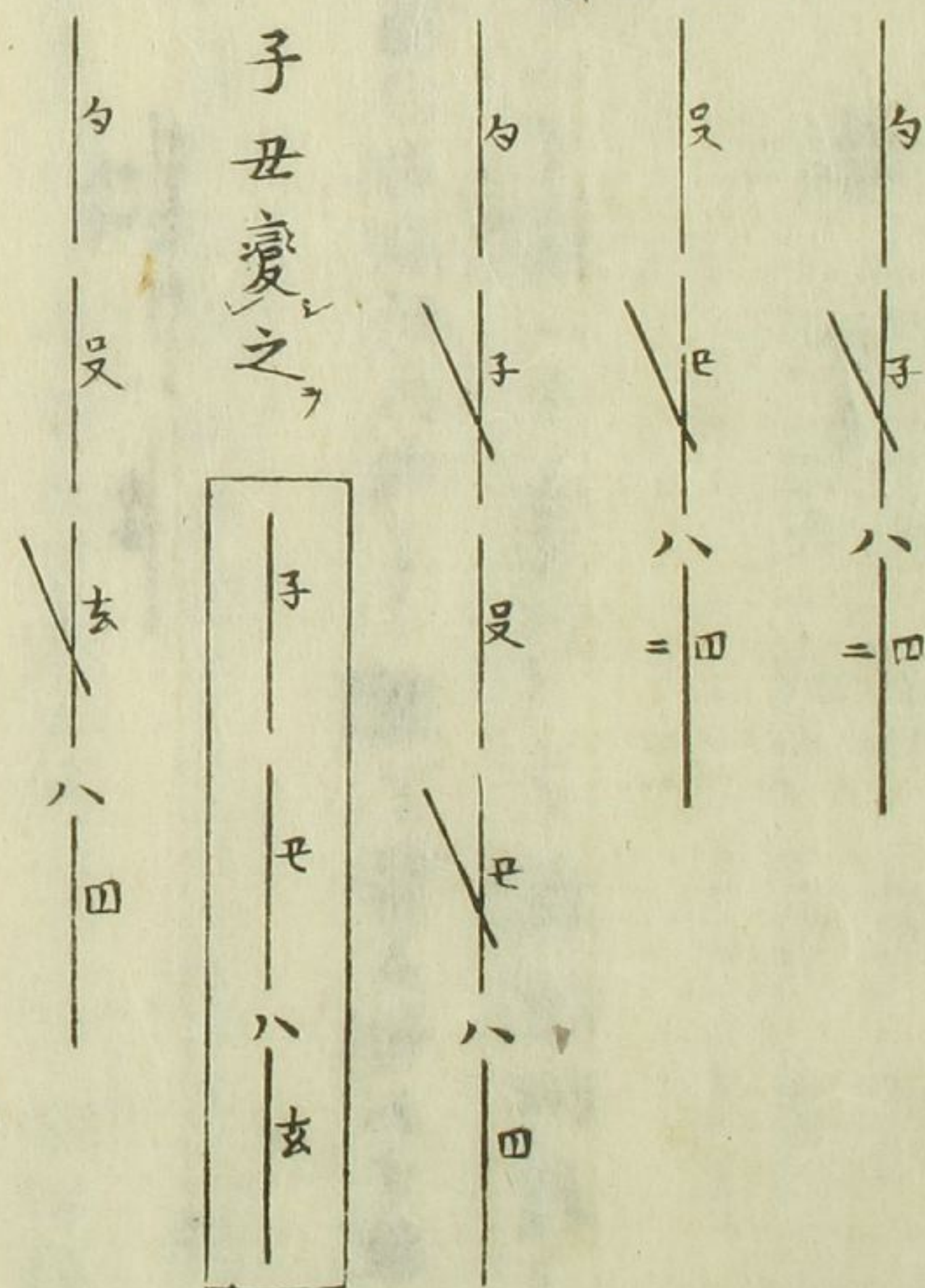
元後	元中	元上	元後	元中	元上
今後	今中	今上	今後	今中	今上
ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ

元後	元下
今後	今下
ハ	ハ

例 比	
元後	元横
元上	元中
元下	元下
今後	今横
今上	今中
今下	今下



子丑爻之ヲ

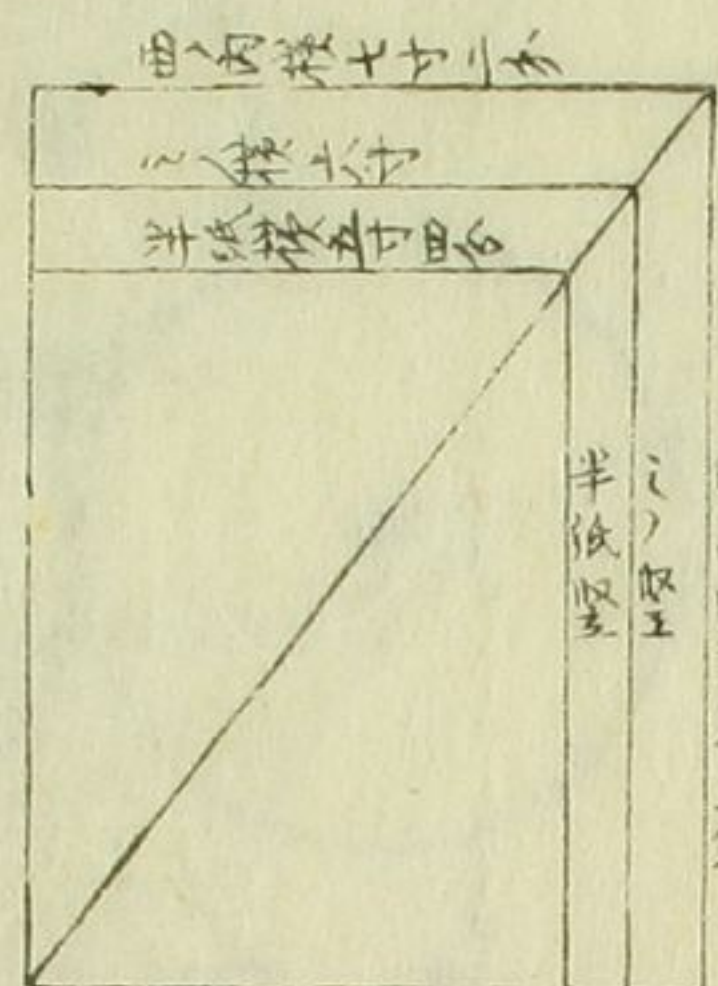


○西の内本堅きと尺。貳分横七寸貳分あり其恰好より  
 かりしき美濃紙本横六寸半紙本横五寸四分にして  
 美術を用ひざるゝ各堅を得る術を問

答

美濃紙堅八寸五分  
 半紙堅七寸六分五厘

解面



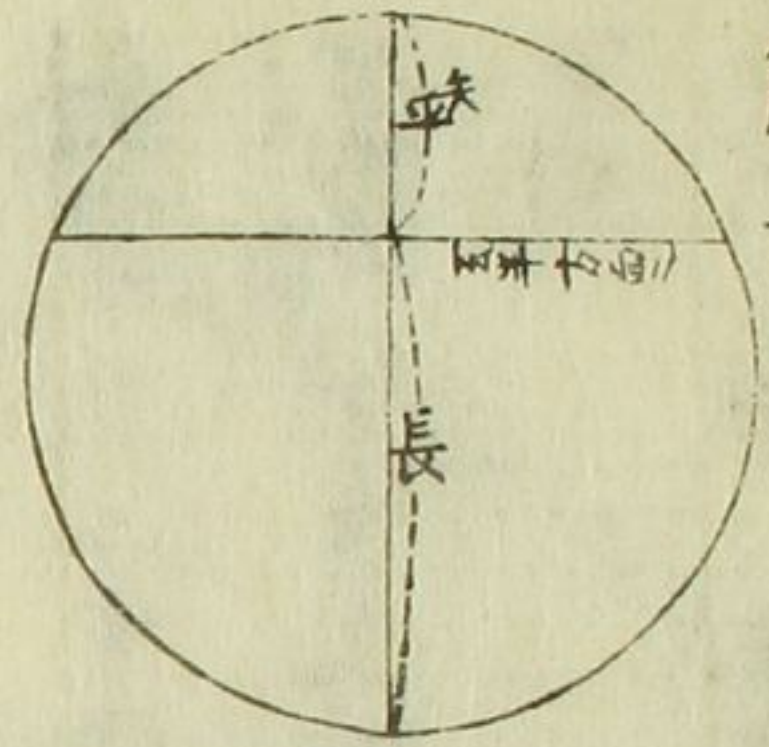
上の差のこゝろ、丑は内本堅きと尺。貳分横七寸貳分の  
 内、横と、西の曲の横より、いゝ寸五分あり、より  
 西の内、堅き、いゝ寸五分、紙の堅より、五分四分あり、南  
 より、下半紙の堅より、五分四分あり、此例の理より

○長八寸平二寸の直形あり、其積を以て方と他らんと  
 美術をかりしき、規矩術を以て方面を得る術  
 を問

答 四寸



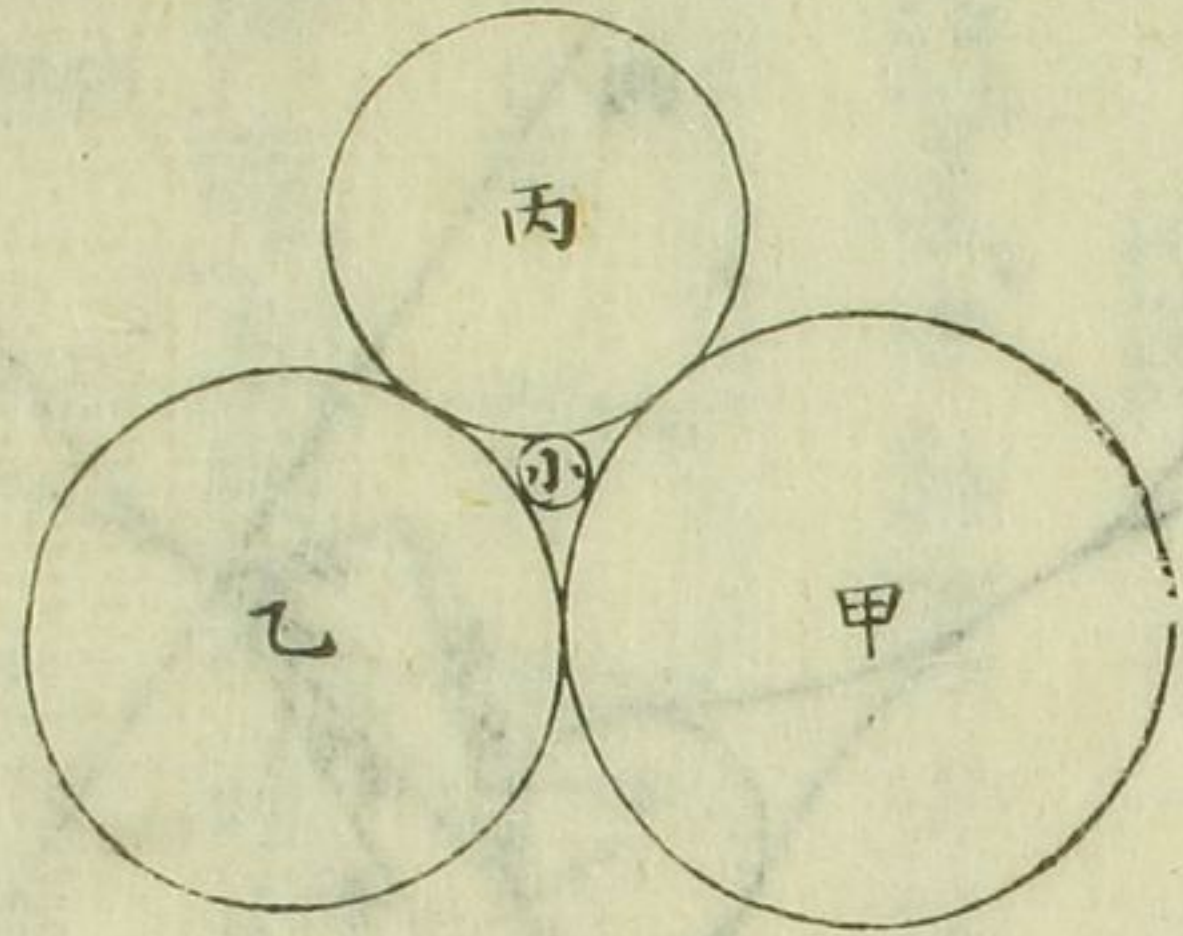
解圖



長八寸に平二寸を短く一尺の図とあがき平二寸を失くして弦と求め弦半徑とさつり方面より

算法點竄初學抄終

算法點竄初學抄附錄



今有如圖甲乙丙圓交鑿容小圓  
 甲圓徑九寸乙圓徑六寸丙圓徑  
 二十寸問小圓徑幾何  
 答曰小圓徑六寸

解義

古今算學抄

附錄

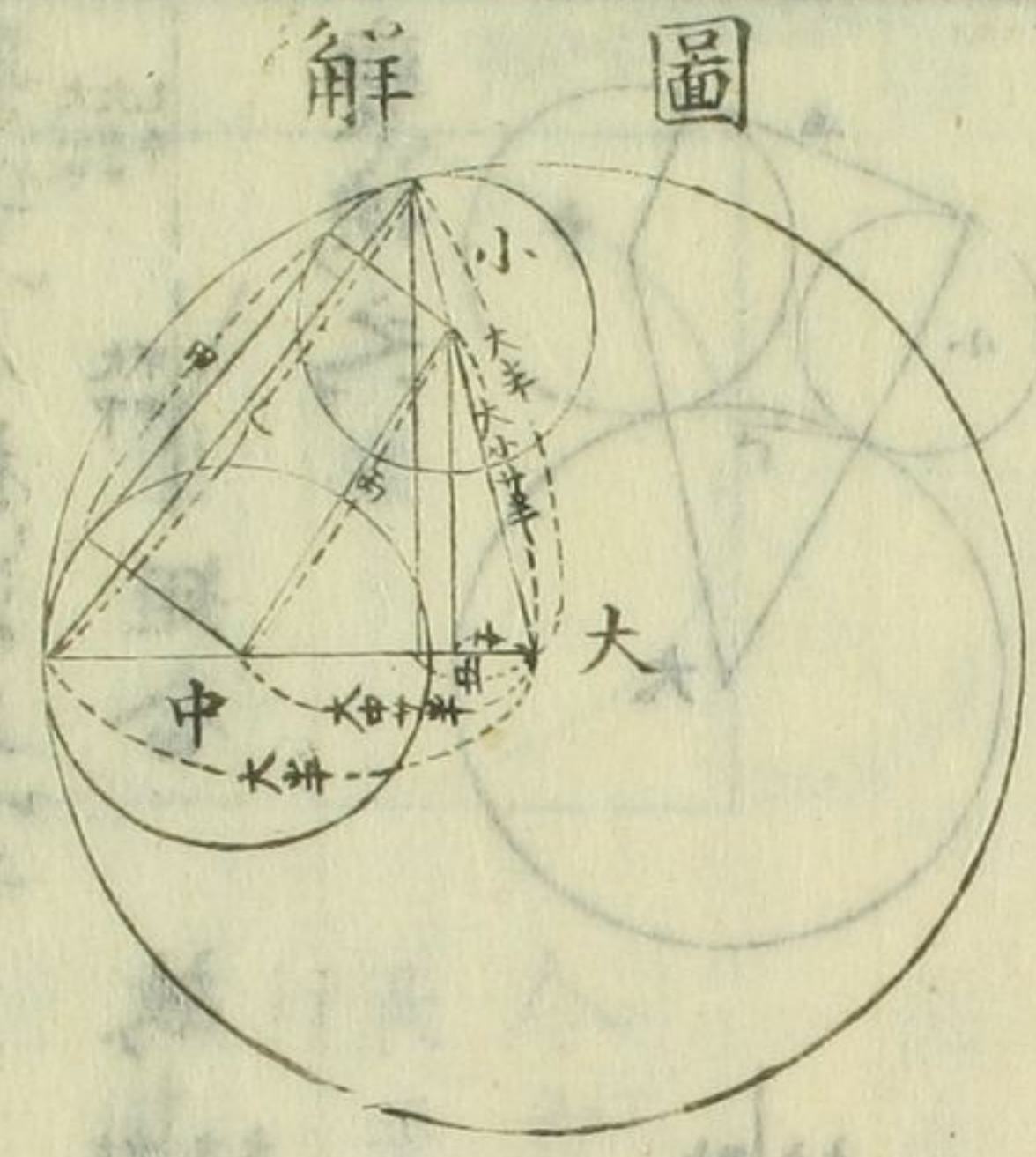


甲乙  
甲丙  
乙丙

於是起本術

術曰置甲徑乘乙徑名元乘丙徑名專置甲徑加乙徑名利乘丙徑加元名貞置利加丙徑乘專平方開之倍之加貞以除專得小徑合問

前件解中求各斜起原



及大小徑差得

列大中徑差自之加大小徑差幕內減丙幕四餘

有大小中各徑及甲問乙

甲乙與前解異也

比	大	中
例	大	中

乘大中徑差

變之寄左

付錄

附錄

括之乘大徑冪

大小中  
大中  
大甲  
大乙

與寄左相消半之

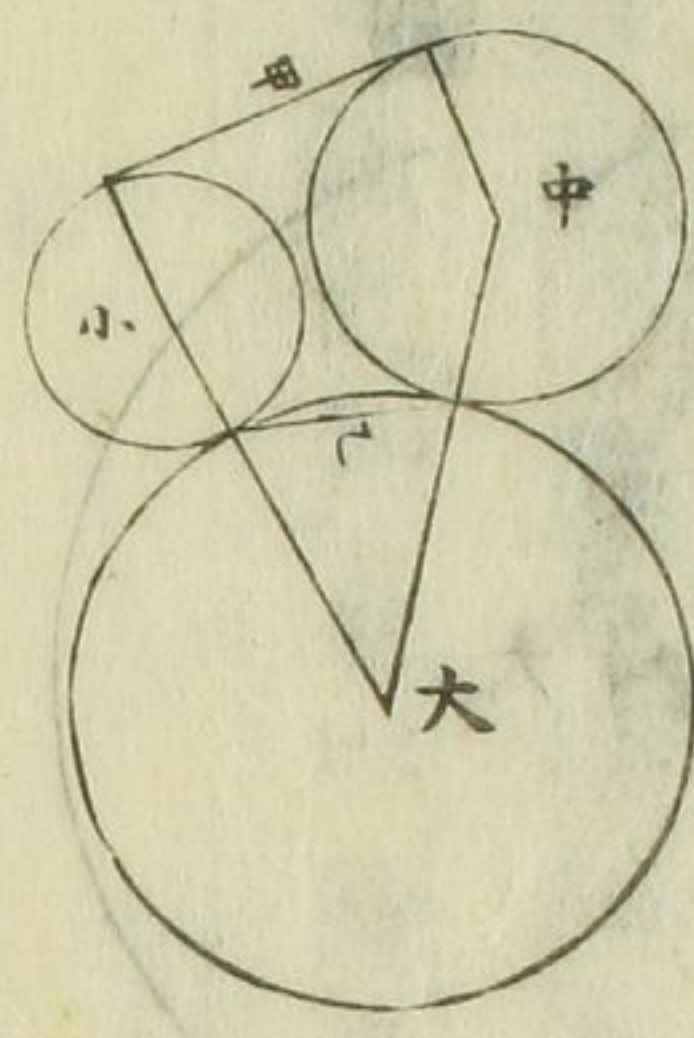
大小中  
大中  
大甲  
大乙

矩合

故

大小中  
大中  
大甲  
大乙

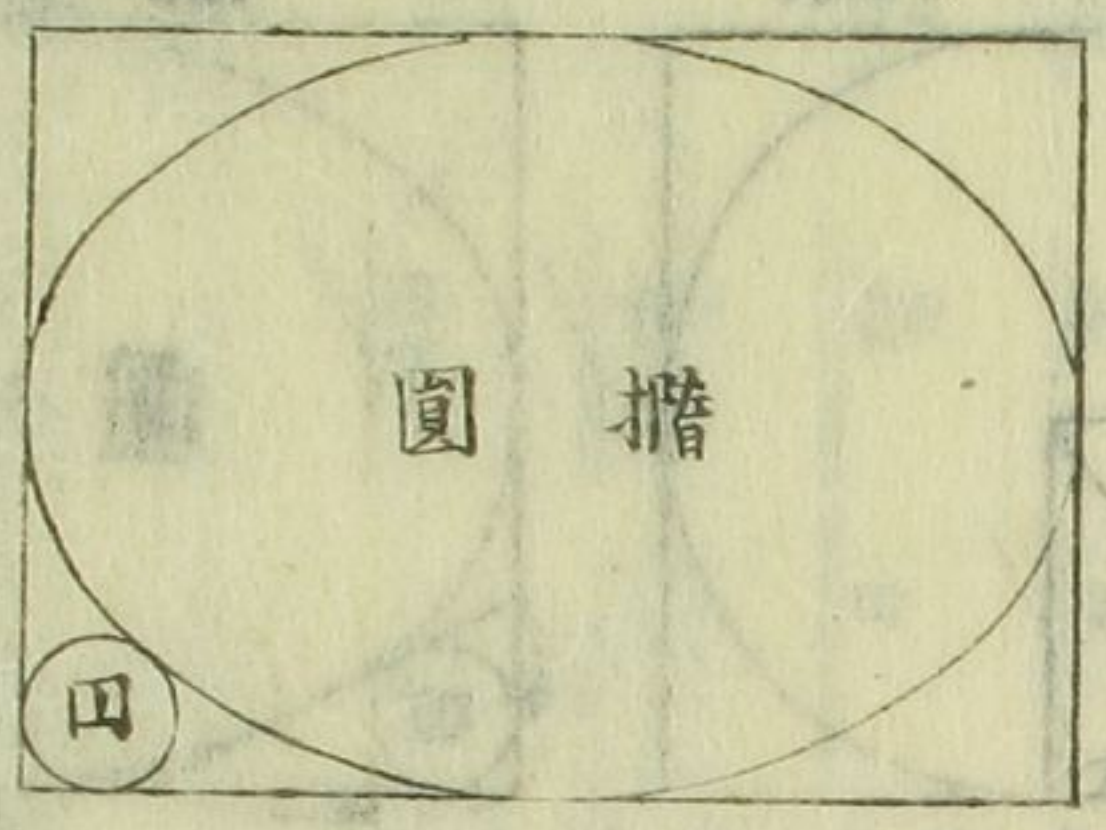
變換之



大小中  
大中  
大甲  
大乙

用此適等則得簡解者如前件矣

解義



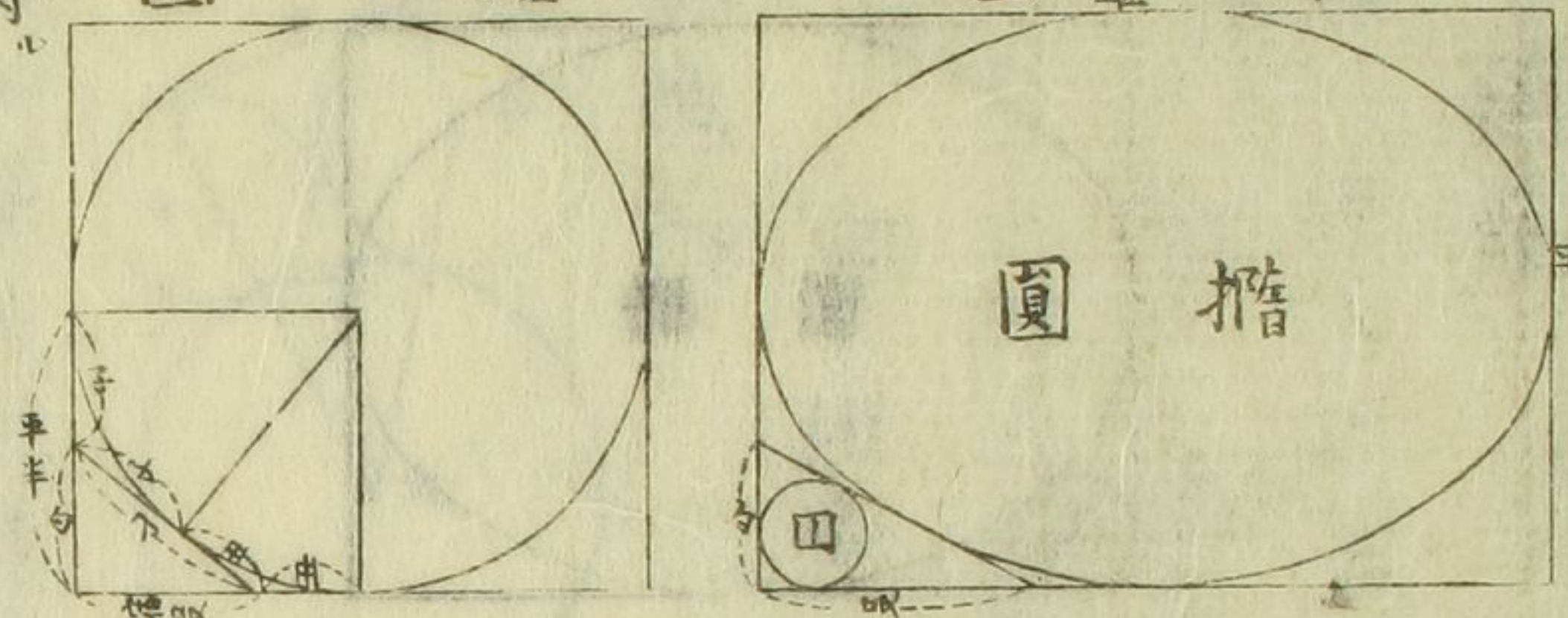
今有，如圖，直內，容摺圓及圓，長徑與直徑  
長平長一十平九問圓徑幾何  
答曰圓徑二寸

點竈丸切學少

附錄

點有九刀銀子抄

得圖縮圖解



得 乘平以長除之

餘 加句以減平

列句累加縮股累與寅累相消

遍省平乘除數解之同加異減而

求得句式

容圓往至多則其周應親于擗圓周然所以協題圖者分明也故因適盡方級法實級脫之廉級倍之得

故 對換之 自之加句累得

括之平方開之



點有九刀銀子抄

五

列句加股內減弦餘

長<sup>四</sup> 平<sup>四</sup> 長<sup>四</sup> 平<sup>四</sup>

遍省圓徑平商自之得

長<sup>平</sup> 長<sup>平</sup> 長<sup>平</sup> 長<sup>平</sup>

括之

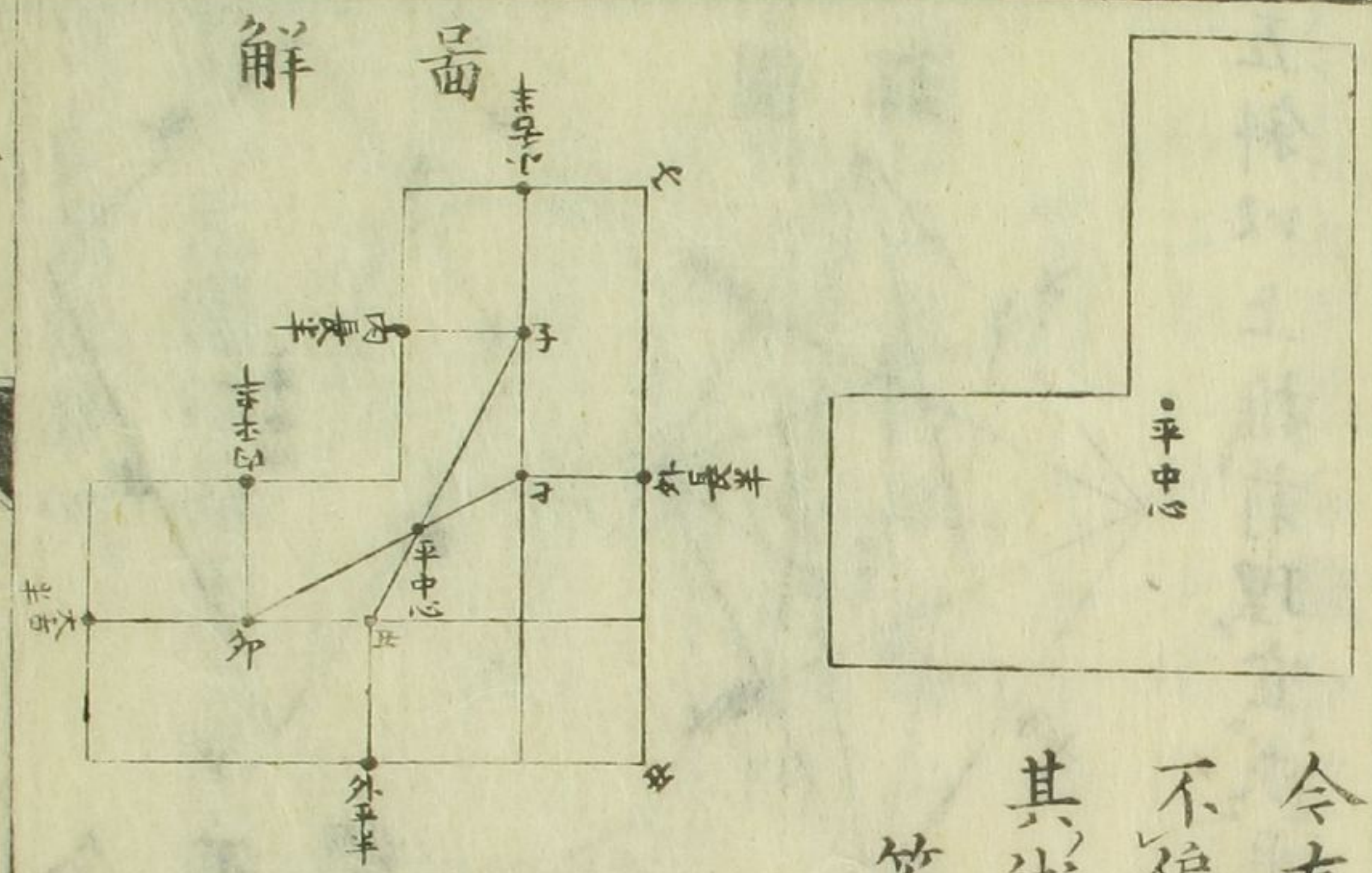
長<sup>平</sup> 長<sup>平</sup> 長<sup>平</sup> 長<sup>平</sup>

於是起本術

術曰置長乘平名乾平方開之加長及平名坤自之內減乾餘平方開之以減坤餘得圓徑合問

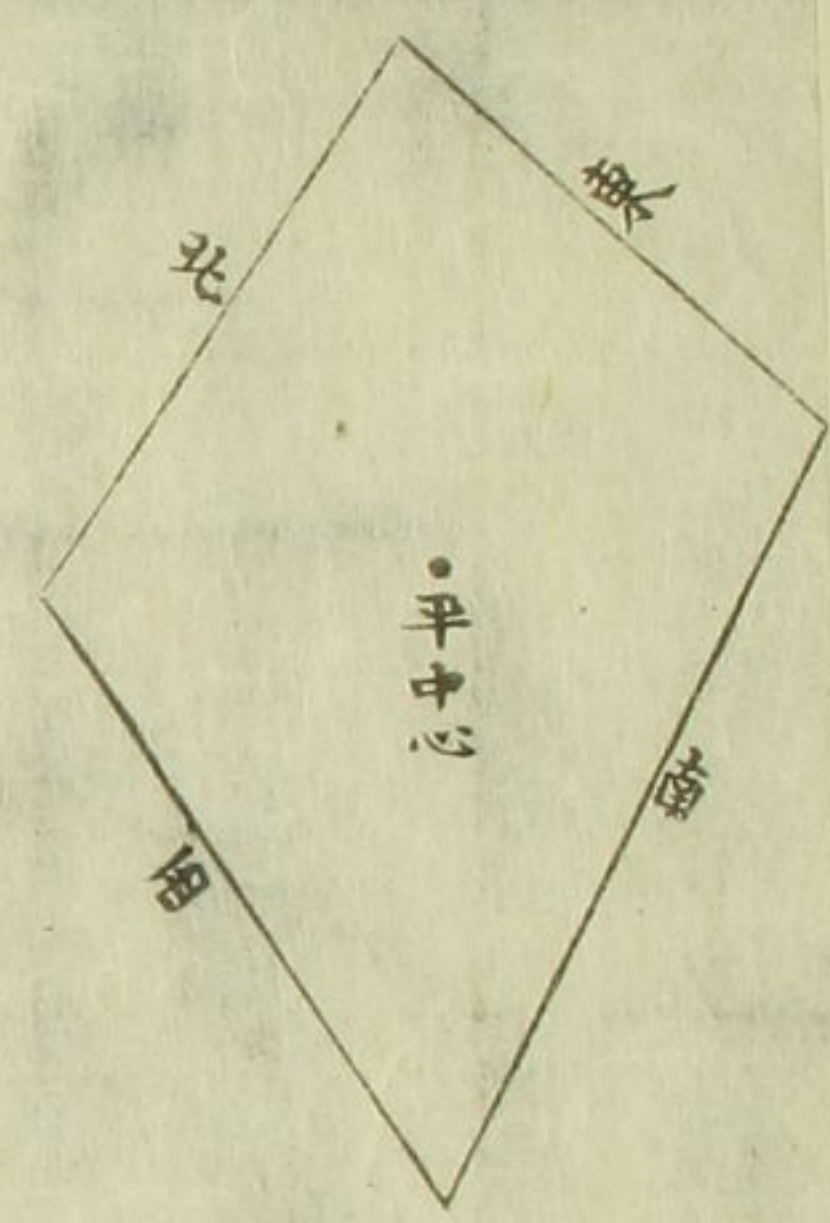
今有如圖平曲直以中心鈞之不偏欲依規矩術求平中心問其術如何

答曰如左術



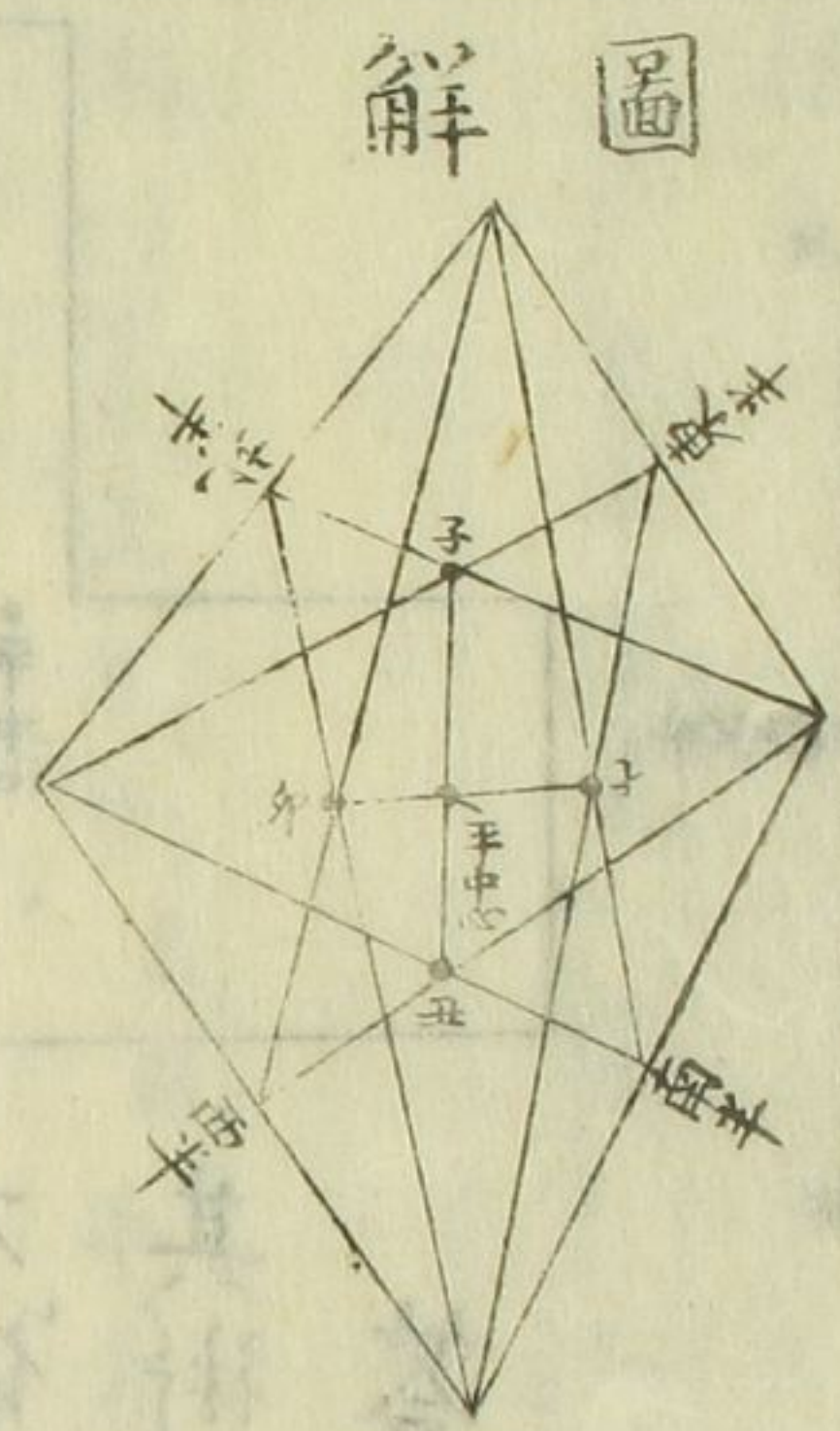
子丑線  
寅卯線

相交為曲直中心



今有，如圖，四斜以中心，鈞之，不偏，欲依規矩術，求平中心，問其術如何。

答曰：如左術。

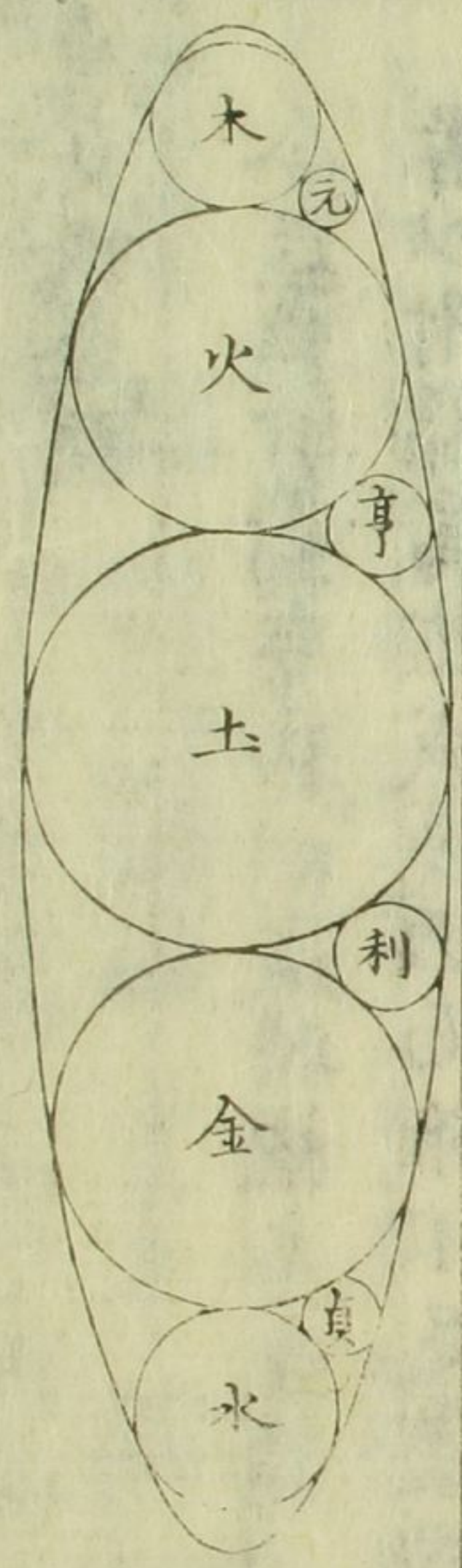


子午線 寅卯線 相交為平中心。

五斜以上推前理，宜求平中心也。

今有，上下米石數合，一十五石三斗一升，每兩上米一石二斗三升，下米一石三斗四升，問下代金幾何？  
答曰：下代金五兩。

術曰：石數和滿，每兩上米者，去之餘，以每兩上下米，差除之，得下代金合問。



今有，如圖，橢圓內容五圓及四

圓，元圓徑若干，亨圓徑若干，利圓徑若干，問貞圓徑幾何？

里... 附録

答曰如左術

術曰元徑加利徑乘利徑以享徑除之內減享徑餘得貞徑合問

今茲點竄初學抄刻成時橋本生請余解術簡易者以附錄焉然咸淺陋而雖不足盡點竄之變態亦當以曉初學之迂惑耳癸巳仲春貞一再識

岡川 進書

算法點竄初學抄附録終

西碓長谷川先生門人算書著述目錄

尚古堂

算法新書

西碓 長谷川善左衛門寬間 流峯 千葉雄七郎秀編 全五冊

此書諸教の名義より算見相場害差分盈胸求積開平方開立方勾股弦容術天元點竄交商變商整救逐索成救互減通約互約逐約齋約自約増約損約零約剩胸一翦管適盡變救招差操術綴術圓理角術及雜題小至術每小起源を明し小卷末に極形術を附録し卷中未發の新術教條を挙げ古人の解難きを解し都て算家帳中の秘を詳載し四方の算上此書小因り術路を求めば無用の工夫を費はさなく解義捷徑を精術と得給ふ

算法極形指南

西碓 長谷川善左衛門寬間 鳳堂 秋田十七郎義一編 全九卷 初編 二編 三編 每編各三卷

此書極形術の法則より起り一個の極形變化して教件の象を成し一種の極矩合選原して不同の矩合件を起り理を示し群書の難問二百餘條の起源を詳載し新法の術路を導き速小精術を施すに至る前人未發の新術ありて窮理解義捷徑の良法なり

藏板目錄



算法變形指南

西備 長谷川善左衛門寛閑 梅坪 平内大隅廷臣編 全一卷  
局題の變形を明瞭と術路を探索し精術を施す妙法古今未發の論なり  
初学の士此書に因るは變形の理をのりて明あるべし

大全塵劫記

西備 長谷川善左衛門寛閑 藤樹 山本安之進賀前編 全二卷  
八算見一相場割差分盈朧坪割開平方開立方勾股弦容術及天元點竄術  
等の解義を皆平假字に書けり人々示す意深切可憐直に先  
生の教諭を受るが如し尚又近頃増補を加へ再刻して卷末小解義若干條を附  
録し幼童初学にまといても會得し易き稽古本なり

點竄手引艸

西備先生閑 山本安之進賀前編 秋田十七郎義附録 全三卷  
點竄術の数学最大の良法方法の根原あり故此法は因らば諸術の起原を知  
る能はる也上木の書校本ありといへば解義省略あり初学通曉し難し故に今  
平假字を用いて術路を明し算語の傍に註を加へ其詳なるを實に手とり  
引く如し故初学の士といへば此書に因るは變形の理をのりて明あるべし

點竄手引艸二編

鳳堂 秋田十七郎宜義閑 大村金吾一秀編 全三卷

點竄手引艸三編

備漢 長谷川善左衛門弘閑 檀嶺 前島半七由之編 全三卷

點竄手引艸四編

備漢 長谷川善左衛門弘閑 藤嶺 古谷節右衛門道生編 全三卷

點竄手引艸五編

備漢 長谷川善左衛門弘閑 齋藤忠吉雋編 全三卷

算法側圓詳解

竹木軒 村田佐十郎恆光編 全一卷  
圓壙斜小截の所の截面を側圓と稱し今側圓の内外小方圓横斜等の雜形を  
交へ容の題術を輯録し都て側圓の全圓を還源して術路を索む故に容の所の  
雜形も又還源の矩小應して屈伸を成る卷中專ら屈伸變化の理を詳し  
く解義を示し初学之士といへば直に會得し易きことを要とす

算法地方指南

朽木軒 村田佐十郎恆光編 全一卷

田畑反別高石盛物成豊山檢見の仕きより地方算法の問答と載せ古今租税の異同と論じ次小川除堤用水堰樋普請等の法と載せ又田畑屋敷地堤等ハ其象小隨ひ其積と求る法を詳く示し故小此書は因るこ此ハ地方の法

算法直術正解 梅坪 平内大隅廷臣編 全一卷

此書ハ諸算書の題を集りて解を成そ其解中寄消を用ひて直術精術と施そ成專ら此是と俗小視除の術といふ又卷末小解中寄消を用ひて精術を得る解義若干と載る其解皆捷徑なり故小此書は因るこ

算法助術 備漢 長谷川善左衛門弘閑 藤樹 山本安之進賀前編 全一卷

容題の術路を求る小專ら用ひて適等矩合百餘條を挙げ又交商矩合及衰梁方梁の積小至るまで悉く是と載せ解中運筆の勞と省く助とす

算盤指南 備漢 長谷川善左衛門弘閑 紫山 大藪依助茂利編 全一卷

諸教の名義より一算見一乘除定位相場割次九章の法と載せ九章ハ田粟布差分少廣商巧均輸盈朒方性勾股是なり又次開平方開立方を載せ容術ハ題毎小解義を詳くし卷後小容題雜問の解義を附録す此書小冊といふ

算法求積通考 備漢 長谷川善左衛門弘閑 岳胡 内田半吾久命編 全五卷

極救の解義及方圓究理の起源と輯録し立表枚件を挙げ其用法と詳みし又雜問小至る方圓截積穿去積積交周等及世小黒點運行の軌線或軌跡など唱ふる類都く一百餘條を挙げ題毎小其術の起源を明かするこ中其形古今未發の圖を著し解説口づつ授けらるる如し學者此書ハ因るこ此ハ解中運筆の勞かく精術を得る小速るれば遂に師ありて方圓究理の蘊奥を得る小至るべし

同 後編 備漢 長谷川善左衛門弘閑 流西 阿部雄次重道編 全二卷

前編小方圓求積の理ハ盡そといふも未其象と盡そといふ題の淺きなるを又少ぶるを故此書先づ世小釣題或釣と唱ふる所の勾股三斜四斜圓缺或

異形の物を釣る題若干を挙ぐ其起源を詳ふ一又次小黒點運行の軌跡異形を成  
を其積或ハ周を求る類其餘者て前編小洩たる題とも枚條を挙げ、題  
毎小其起源を明くして解く安く、む実ニ此書一出、方圓究理の底を  
盡すといつるべし

算法通解 長谷川礪溪問 甲斐駒藏廣永編 宗田運平義晏校 全十卷

西礪先生の算生山口千葉平内田久間木谷官本馬場梅村等及社中の諸士新  
考の題術を設け或ハ諸算書の解義を成して師の問を請と年々歳盛、稿  
囊中小滿つ積年の久き竟小蝕亡破失せんことを患ひ郷小津田氏訂正  
せしむ、かとも勤職繁務、卒業今甲斐宗田の兩子其功を讓  
らる爰小兩子尚礪溪先生を再訂して以て是を世に公る、毎條術路捷徑、  
と自然、師の學風と具に

量地圖說 長谷川礪溪問 甲斐駒藏廣永編 小野友五郎廣胖校 全二卷

此書ハ少くも算法と辨、初學の士小量地術を教、捷徑の法を著、測量器ハ  
手輕き木器を手づくり製、是を以て磁石も用ひ、土地を量り、由尺、小  
有、遠近高低等の間敷を求る、元、田畑屋敷地等の真形を畫く、小  
自在、心能く此法を鍛鍊、を、國郡鄉村等の大測と云とも皆同理  
なり、器ハ木器、精密、此書小因、學、師、其理を悟り、遂、量地術の蘊奥を極、至、

量地算法圖解 礪溪 長谷川善左衛門弘問 榎園 田中謙五明編 全一卷

此書ハ地を量る小專ら算を用ひ、遠近高低等の間敷を求る法、著、  
測量器ハ細圖を出、其用法を詳、術ハ圖解、依、此例式と設、其起源を明、  
又術中開平方を用ふ所、至、別小表を奉て平方開、又圖盤と  
用、ハ線表、因、其間敷を求、能、故一度十分六位の表を奉て  
量地術の一助、其用法、又卷中、詳、彼、家、此書小因、  
速、遠近高低等の間敷を得、なり

量地緊要 礪溪 長谷川善左衛門弘問 榎園 井上庄太郎正庸編

此書ハ今新小測器を製作、弧方儀と名け、以て遠近高低等を量、法、著、此  
器を用ふること、算元より曲尺分度規渾發等を用、其地、臨、直、

其間教を知るるは縮圖を画く勞を省き筆算を携へて一目瞭然たり  
實の弧方儀の量地实用即知の名器なり書中の其製法及寸尺を以て  
委しく記し其用法を詳示す故量地術の志あるもの此書が因るに即座に  
遠近高低等の間教を知る法ありつゝ明に知るべし

算法量地大成

碓溪 長谷川善左衛門弘閑  
蕃山 甲斐駒藏廣永編 全五卷

算法通書

碓溪 長谷川善左衛門弘閑  
藤岳 占谷定吉道生編 全三卷

算盤を学ぶ法則をとりて諸教の名義より八算見一の割詞の如く乗除  
至る條毎の註を加へ手を取て引が如くあれ師と求めりて字の異るを  
乗除定位又相場割一術と字ふを以て百万の法と悟る其解義と詳し其  
餘差分盈朒求積開平方開立方勾股弦容術天元點算等小至るまで術  
毎の起源を明くする故に初学の士此書が因るに即座に算の蘊奥に  
至る人も又多かりし

算法約術類聚

西碓 長谷川善左衛門弘閑  
流峯 千葉雄七胤秀編 全三卷

通約互約逐約齋約自約増約損約零約數管等の題と設る法則より  
解義精術小至るまで詳し載せし約術の全書なり

算法整數指南

碓溪 長谷川善左衛門弘閑  
柳山 官本惣左衛門重一編 全三卷

題と設る法則と求る小各不盡無きと整數といふ此書専ら題の應に象の隨ひ  
て整數の求る法と詳し故に此書が因るに即座に整數と求るの法明なり

算法眞形圖解

碓溪 長谷川善左衛門弘閑 全二卷

此書の角形と始り圓側圓の類又立形小至るまで立方直堡壘方堡壘方錐直錐圓錐  
圓臺諸角臺圓錐或は球小圓或は角形と穿ち又諸象を截る形の正面或は横或は  
斜小視る其眞形と畫き又黑點運行の軌跡等小至るまで悉く其眞形と自  
在に画く其起源を詳し示し學者此書が因るに即座に眞形と自

算法極形辨疑

津田鳳堂編 全三卷

極形小似く極形にあつたもの教多かりて初学の士是を疑ふ故に此書  
専ら極形小似く極形にあつたもの教條を挙げて其理を明くす

又極形の雜問教條を挙ぐる題毎に其解義を詳くし初学の士此書に因るに疑いあつたり其疑を辨むべし

必用算法

備漢 長谷川善左衛門弘閑  
東山 小野友五郎廣胖編 全五卷

此書は先ハ算見一と能く會得するに専らとして師を求めず學ぶ異にありしゆ其用法一術を以て百千万の術と知る其起源を詳くし金銀米錢等の相場割に至りて其法の元より別表を奉て委く其真教を記したる無算の令いへも一度表を視ると其相場の隨ひ隨ひの枚を知らし其外都て士農工商共其道に益あるものと集め部を分ちて見安うし又馬根米積り或は小屋割等悉く其教を記し假令何千人の根米何程或は坪何人入る割り何千人の坪数幾坪其縱横何程と云々と速く知る此餘の諸術皆手を取りてむく如く此書に傍ら置るはたゞの字書と以て文字を引か故に士民とも其用益を益々の書あり

算法側圓眞理

備漢 長谷川善左衛門弘閑  
梅村徳兵衛重得編 全三卷

都て側圓の全圓の環源と術路と求む故直其理を悟り其理の有りは此書始り側圓の起源及其眞形を畫く解義を詳くし又雜問教條を奉りて専ら環源の理と

示は故に初学の士といふも此書に因るとは側圓の環源と全圓と成るの理の明くあり速く術路を求むに至る

算學必用

備漢 長谷川善左衛門弘閑  
溪川 安倍勘司保命編 全一卷

算法の用字を始め基教大教小教度量衡諸物輕重教九九合教九歸法撞除法半九九再乘九九加法減法乘除定位水錢斤目曲尺材木尺ノ求積圓積法圓周法五積法其外諸率地方算籌縱橫算盤の圖天元及點竄術定則平方式算類術の法解中助術の用ふべき容題の適等矩合二百餘條克商矩合適畫法衰塚方塚剩一胸一前管剩矩合胸一矩合零約自約等及方圓求積の立表に至るまで洩れとて悉く是と載る故學者一日も放つてざるの要書あり

算法圖會

中村卯吉政定編 全二卷

此書の淺問の算題を画と添て先づ童子の眼を悦ばしめ是が算の道といひしなり

算法叢書

備漢 長谷川善左衛門弘閑  
東山 小野友五郎廣胖編 全三卷

算法撰解 備溪 長谷川善左衛門弘閣 全三卷  
溪川 安倍勘司保命編

算法近道 西備 長谷川善左衛門寬閣 全一卷  
精山 芳賀孫吉知致編

算法見安 松尾仁兵衛安信編 全一卷

算法圓理三台 雪山 佐藤虎三郎解記閣 全一卷  
貞齋 南五兵衛亮方編

匠家矩術要解 梅坪 平内大隅廷臣編 折本一帖

匠家矩術新書 梅坪 平内大隅廷臣編 大折本一帖

世に謂所屬垂小工匠は是を造るも実俗云押割りなり其の矩法非此書卷首の曲尺の義と解き其用法と詳し示算盤を用ひず八算見相場開平方開立方亦に平尺と曲尺とを自在に乘除する法と論次増廻下の要法と明終に補遺の矩術と兼て極開割り計の真材と起原と詳しと表附法材料と兼て工匠等あて扇垂来の速成法とを教ふ其の匠家の奇法と云

諸先生算書著述目錄 尚古堂

拾機算法 鳳岳 豊田先生編 全五卷

此書ハ點算術と始め自約増約簡管計子交商綴術變數容術分果趕趁球題逐索變式作式極數整數堆積招差求積等と載て其書中皆漢文小書なる書あり

研盟算譜 柳 白石先生編 全二卷  
旭洲 池田先生訂

世に圓理孤背真術唱ふ小僅小圓法孤術等小過之書中載る所あり其類ハ何れに楕圓周背の簡術と初め是ハ一階事とする圓象球類の求積と楕圓小の妙題奇術と撰ひ社中より廟堂に掲むる集り附録ハ球面三斜積欠の尺積と初め諸算書の誤を正し卷末より不刊算法の内就中奇ありと載て此書小因るハ算術の精奧に至ると近

溫知算叢 柳 白石先生編 全一卷  
陶 木村先生編

鄰々先生の傳にあり陶々先生自得したる内容題及圓珠の求積と楕圓小の奇題妙術と集録する所なり

算法雜俎 鄰、白石先生閱 岩井先生編 全一卷

鄰、先生の傳上も小擴り其域小至、輩自ら奇の術を發し、廟堂小納むるを集め、  
才、湛、先生自得の奇術と水内小泉西先生の妙術其外同朋の題術を加へ、御新先生の翦  
管の簡術、湛、先生の諸算書改正術、議論と異なり、總、此書と楷梯として、学、小、不  
速、小、救、意、を、極、る、至、る、べし

算法圓理冰釋 湛、岩井先生閱 全二卷

球面三斜積、穿去積、交周、小の解義及世、小、は、ぬ、こ、と、の、と、稱、を、る、題、小、解、義、と、評、す、べし  
初学、士、とい、む、も、此、書、と、一、見、せ、ば、師、を、く、て、増、約、術、の、編、奥、小、至、る、と、近、す

合類算法 南谷、市川先生編 全一卷

圓、壘、小、弧、と、穿、去、す、る、所、の、内、面、積、と、初、め、都、く、諸、算、書、小、洩、る、難、題、の、求、積、と、方、陣、及、答、題、小、の、妙  
術、と、集、成、と、初、学、の、士、とい、む、も、此、書、と、学、い、得、る、と、い、ひ、速、小、救、理、と、極、る、至、る、べし

算法點竄初學抄 池田先生監定 橋本先生著述 全一卷

此書、小、の、算、書、と、い、ふ、は、術、文、と、記、憶、す、る、に、及、ば、算、見、と、い、ふ、師、を、く  
て、點、竄、及、比、例、小、の、理、と、自、得、し、何、事、小、の、を、み、て、も、自、在、小、な、り、得、る、の、意、を、と、く、べし

算法圓理鑑 旭山、齋藤先生閱 東照、齋藤直義著 全一卷

此書、初、め、小、の、積、の、題、と、載、り、次、圓、理、に、教、截、題、畫、題、穿、題、受、題、廻、題、鈎、題、轉、題、小、各、教、條、と  
集、録、と、い、ふ、も、皆、旭、山、先、生、發、明、の、法、り、て、古、今、未、發、の、書、あり

算法淺問抄 箸隻、御新先生編 全一卷

此書、淺、問、と、專、し、小、輯、録、し、て、世、點、竄、の、法、と、初、め、て、学、い、か、ふ、君、達、傳、ふ、と、い、ふ、其、理、と、會、得、  
す、よ、め、一、助、と、も、な、る、下、且、追、加、方、陣、の、通、術、ハ、古、今、未、曾、有、の、奇、術、あり

算法奇賞 錦江、馬場先生編 全二卷

此書、八、貢、湖、錦、江、西、先、生、の、門、生、各、奇、題、と、設、て、妙、術、と、稱、し、諸、國、の、堂、社、小、掲、げ、所、の、算、題、と、輯、録、し、  
又、卷、中、小、載、り、所、の、環、楕、圓、の、類、古、今、未、發、の、奇、題、あり、学、者、此、書、小、因、ら、ず、ん、べし、と、い、ふ、べし

古今算鑑 觀齋、内田先生編 龍涯、堀先生訂 全二卷

初め小和漢及西洋数家の由来と委く挙げ本編の門生の廟堂小揚られ楕圓周背の真術及圓球異象の求積と先哲難題と号し向ふ一奇の答術と施せしと輯録する書なり

算機算法

觀齋 内田先生鑒定 全二卷  
權山 志野先生輯録

古より題術の書乏しといへども奇と妙との奥旨に至りては此書の右に出るもの也後進の士此書を獲て黙覽し多し自ら算法の妙と信ぜし者あり

探蹟算法

豫山 創持先生編  
逸齋 野村先生訂

世に題術の書乏しといへば雖も演段圓理の奇題妙術に至るは此書不過ることなり仍し此書の本流を工夫せし猶圓理の微妙と發明しし者あり

算法類神

城山 竹内先生編 全一卷  
神山 小林先生著

此書始より初学解り易き題術と出り末に關夫子の奥秘と盡し是故に極救綴術増約術等の活動圓理の妙用委く此小冊中に含るることあり

算法學海

以々生編 全二卷

天元演段自法逞越形容難備整枚變式類教戲談諸約藤管招差樂術ホと載し初学の士此書小因らふんばあるべしなり

新板塵劫記

吉田光由先生編 全一卷

股勾弦鈔

星野實宜先生編 全一卷

新編弧背術

岩田廣成先生編 全一卷

常用算法

佐久間續先生編 全一卷

此書初め小最上流直傳東嶽渡邊先生の像と出り次に同矩の定例と示し乗除定位の法を歌とて示し初学の士しつゝも悟り安し又雜問教條と挙げり同矩定例の用法を詳くあそ能く此法と會得するべし賈買貸借其外の見分同ホに至るも自在なる法の法と著し次に求積に平積立積兩平方帶縱兩平相應兩中兩立方相應兩立曲尺算乃至るまで悉く是を載り又卷末に諸算書の別術及東嶽先生著し所の奇題妙術教條と附録の小冊といふも此書と楯梯として學ぶべし速く天生活術と得る書なり



算法開蘊

豫山 劍持先生著 全五卷

此書ハ定位法目錢差引早算開平方開立方及術開立方各算類盤の圖で用ひく師多くして會得安き事細小を指示又利息算年賦割の類是方での上木の書と違ひ年教如何程多くても速小其答教を得る新術と施とす極枚原積變教など前人未發の解義あり且約術新撰簡法と著し其解義と詳より以実下約術の龜鑑なり附録ハ異形本末の輕重を知る新考術と載る卷末ハ圓理極教の正術と載る

量地圓起方成

豫山 劍持先生著 全二卷

此地ニ在て彼地の遠近を知ると先より高狹廣狹及形の大小眼力の及所至らば一々爰に詳く是圓起方成陽生陰成の理を具其算速已て百的百中得の奇法あり且平仮名で野外の量術及算術と書記其用する所の量器之圖を以て何成辺鄙でも木匠人に命をれ作りぬる所の器として便利都て叫喚深し初學も以て會得其書面見書之

同 後編 豫山 劍持先生著 全二卷



京都三條通升屋町

出雲寺文次郎

同 寺町通松原下

勝村 治右衛門

大坂心齋橋通北久太郎町

河内屋喜兵衛

同 安堂寺町

秋田屋 太右衛門

江戸日本橋通壹丁目

須原屋 茂兵衛

同 本町通横山町壹丁目

出雲寺 萬次郎

同 芝神明前

岡田屋 嘉七

書肆

